

## 「川崎市総合計画」第1期実施計画・総括評価結果について

「川崎市総合計画」の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1

### 第1期実施計画 総括評価

施策評価シート（教育委員会事務局）・・・・・・・・・・・・・・・・ P 9

- (1) 「生きる力」を伸ばし、人間としての在り方生き方の  
軸をつくる教育の推進（順調に推移）・・・・・・・・ P 14
- (2) 一人ひとりの教育的ニーズへの対応（順調に推移）・・・・・・・・ P 18
- (3) 安全で快適な教育環境の整備（順調に推移）・・・・・・・・ P 22
- (4) 学校の教育力の向上（一定の進捗がある）・・・・・・・・ P 24
- (5) 家庭・地域の教育力の向上（順調に推移）・・・・・・・・ P 26
- (6) 自ら学び、活動するための支援（一定の進捗がある）・・・・・・・・ P 28



## 第1章

# 川崎市総合計画について

# 1 川崎市総合計画の概要

## (1) 計画がめざす都市像

「成長と成熟の調和による持続可能な最幸\*のまち かわさき」

の実現をめざします。

子どもたちの笑顔があふれ、高齢者や障害者等、誰もが社会に貢献しながら生きがいを持つことができ、産業都市として力強く発展し続ける、そのような成長と成熟が調和し、誰もが幸せを感じられる川崎をめざし、「安心のふるさとづくり(成熟)」と「力強い産業都市づくり(成長)」の調和により、市政をバランスよく進めるために、川崎市総合計画を策定しました。

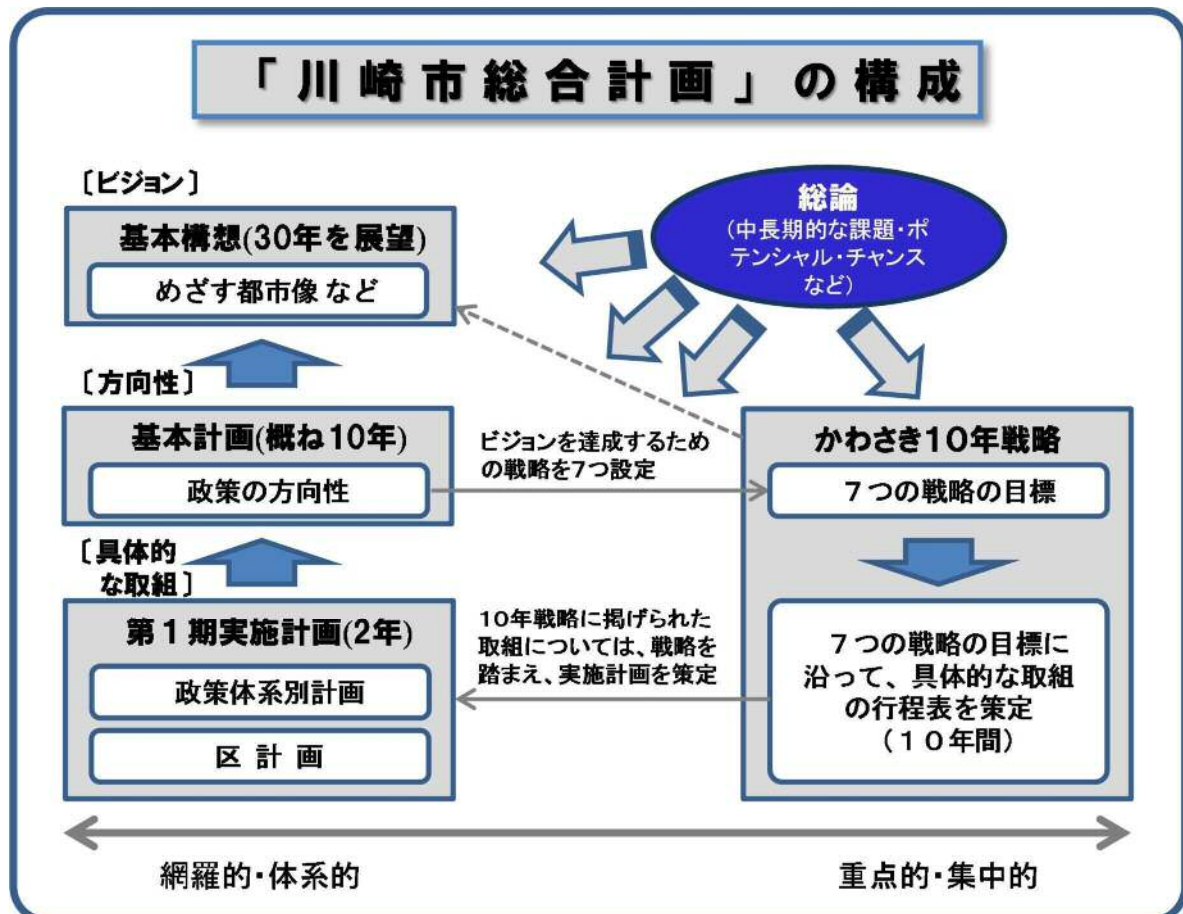
※「最幸」とは…川崎を幸せのあふれる「最も幸福なまち」にしていきたいという思いを込めて使用しています。

## (2) 計画の構成

「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」の3層構造とし、社会経済状況の変化等に柔軟に対応していきます。

また、基本構想に掲げるめざす都市像等を実現するために、中長期的な課題等を踏まえて、「成長」と「成熟」のまちづくりに向けて、効果的な取組の考え方を明らかにする「かわさき10年戦略」を設定し、戦略的にまちづくりを進めていきます。

<図1-1 川崎市総合計画の構成>



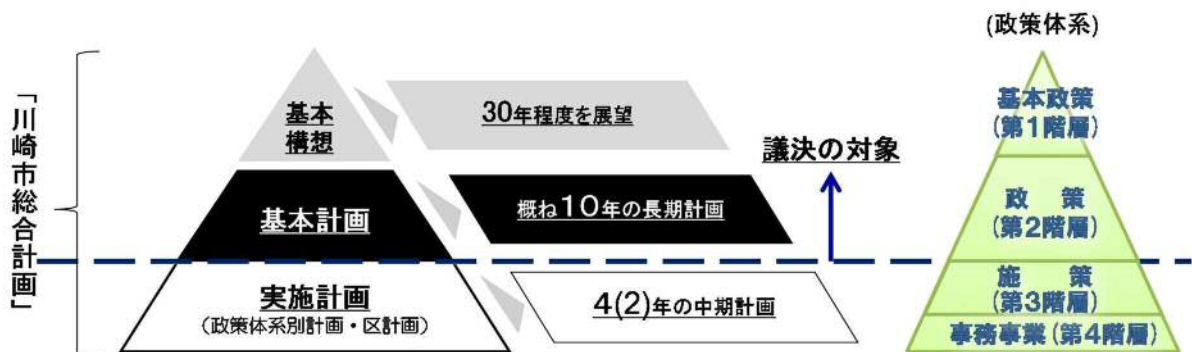
### (3) 計画期間

「基本構想」は、今後 30 年程度を展望し、本市がめざす都市像や、まちづくりの基本目標、5つの基本政策を定めるものです。

「基本計画」は、今後概ね 10 年間を対象として、「基本構想」に定める 5つの基本政策を体系的に推進するために、23の政策及び、その方向性を明らかにするものです。

「実施計画」は、これらのビジョン・方向性に基づき、中期の具体的な取組を定めるもので、第1期実施計画の計画期間は平成 28(2016)年度から平成 29(2017)年度の2か年となります。

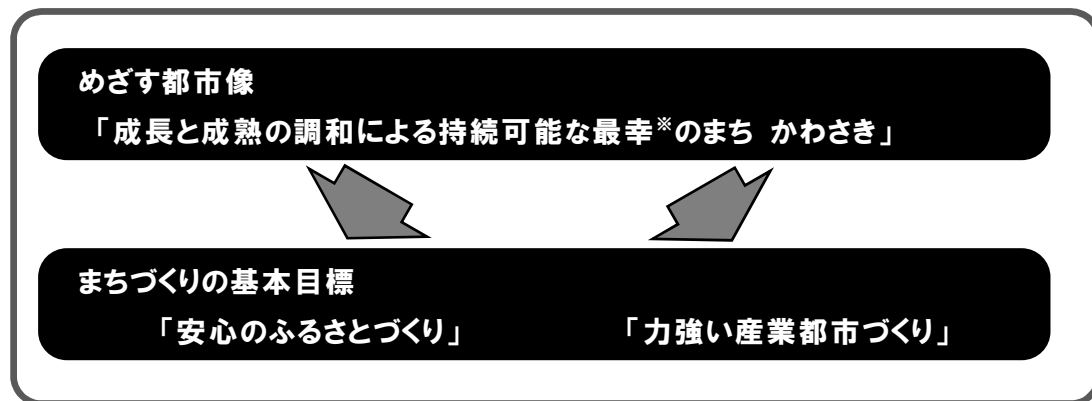
<図 1-2 川崎市総合計画の政策体系と計画期間>



【「基本構想」「基本計画」「実施計画」の計画期間】										
	26年度 (2014)	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	33年度 (2021)	34年度 (2022)	37年度 (2025)		
基本構想			川崎市総合計画 基本構想							
			30年程度を展望							
基本計画			川崎市総合計画 基本計画							
			平成28年度から概ね10年							
実施計画	※実施結果を盛り込む		第1期 実施計画		第2期 実施計画(想定)		第3期 実施計画(想定)			
	H26~H29		H30~H33		H34~H37					

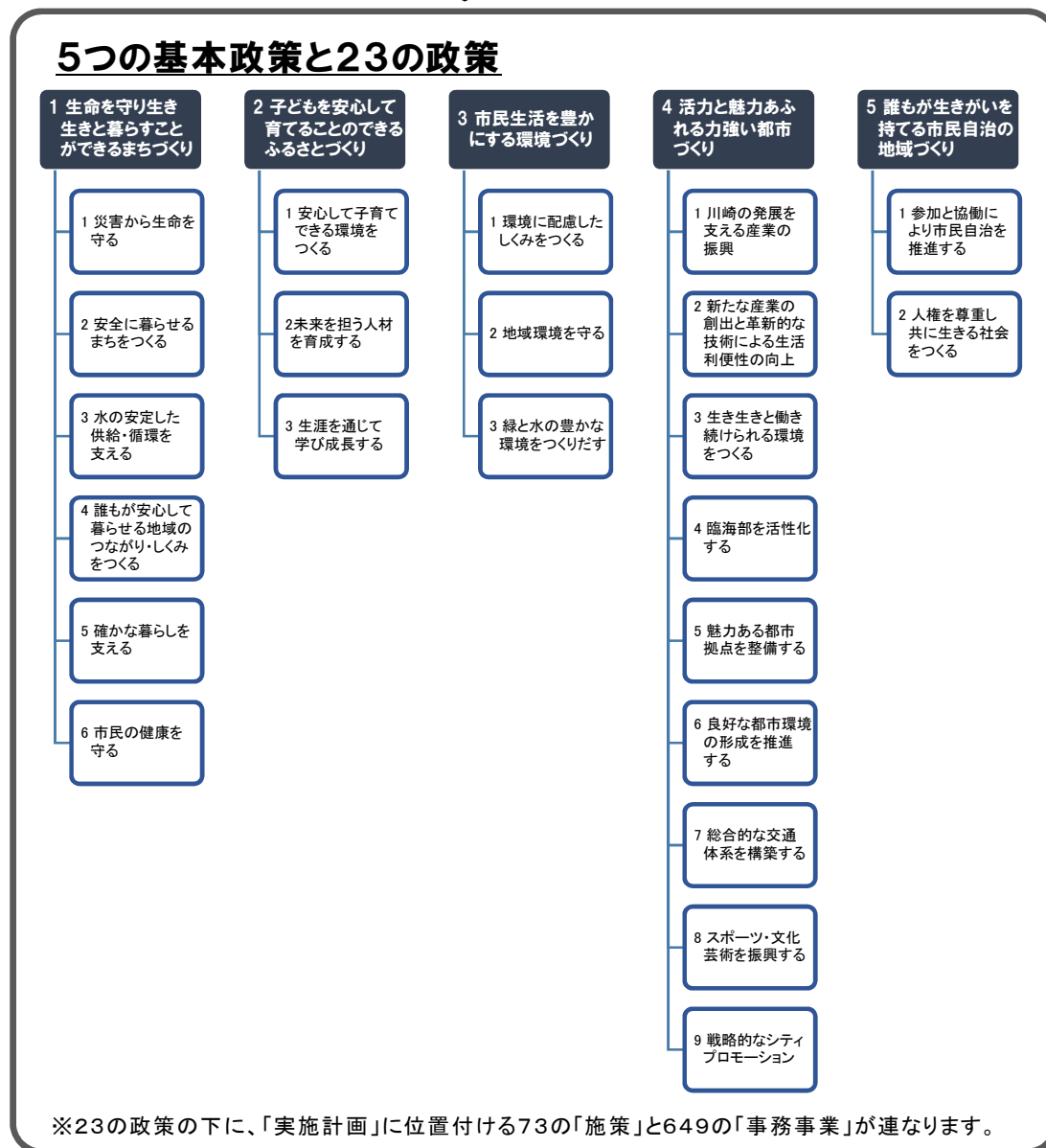
(4) 基本構想で掲げる「めざす都市像」及び「まちづくりの基本目標」等

<図 1-3 川崎市総合計画の基本構想と基本計画の体系>



**政策体系**

※「最幸」とは…川崎を幸せのあふれる「最も幸福なまち」にしていきたいという思いを込めて使用しています。



基本構想

基本計画

## 2 川崎市総合計画における進行管理・評価

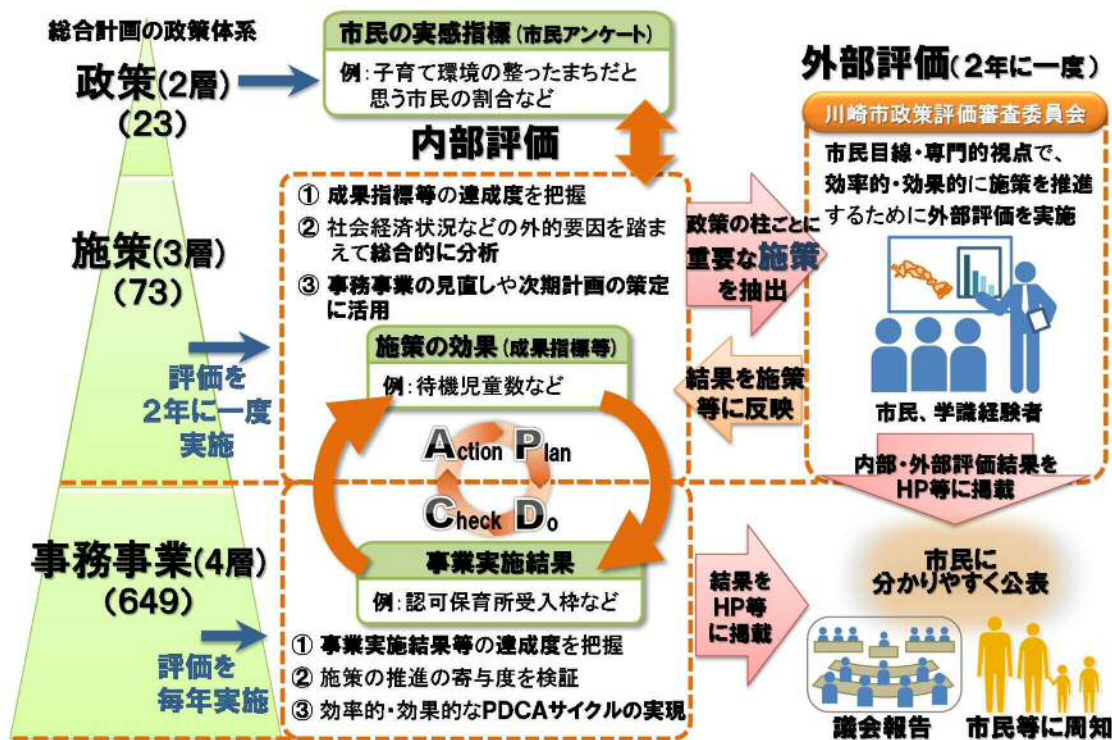
少子高齢化の急速な進展により、人口減少社会を迎えようとする中、限られた財源や人員を有効に活用し、更なる市民サービスの質的向上を図るとともに、市民満足度を高めていくことが今まで以上に求められています。

目標とその成果をしっかりと可視化することで、課題や改善点を明確化し、P D C Aサイクルがより一層効果的に機能する進行管理のしくみをめざします。

### (1) 総合計画における進行管理

どのように市の取組を推進すれば、よりよい成果が得られるかなどについて、市民の実感も踏まえて、内部・外部の視点により検証しながら、進行管理を実施します。

<図 1-3 総合計画における進行管理の全体イメージ>



### 【進行管理のポイント】

- ◇ 市民の実感に基づく指標や市の取組の効果を表す指標（成果指標）を設定し、総合計画の達成状況等を、市民目線で分かりやすく示します。
- ◇ 指標を活用した評価を実施し、総合計画における効率的・効果的な施策の推進につなげます。

## ① 内部評価等

### ● 政策に関する効果の測定

市民の実感に基づく指標を設定し、市民目線による施策等の推進につなげます

政策体系のうち、市がめざすべきまちづくりの方向性や目的を示す「政策」に、市民の満足度等の市民の実感に基づく指標（市民の実感指標）を設定し、市の取組等の結果が市民満足度の向上に、どの程度反映されたかといった効果を測ることで、市民目線での施策等の推進につなげます。

### ● 施策に関する評価

市の取組の効果を示す指標を設定し、適切な事務事業の見直しなどを行います

政策を実現するための方策である「施策」に、市民生活がどう変わるのかなどの視点による目標（直接目標）と、その目標に基づく市の取組の効果を表す指標を効果的に設定し、達成状況を適切に把握した上で、課題や改善点を明確化することにより、適切な事務事業等の見直しや次期計画への着実な反映を図ります。

### ● 事務事業に関する評価

事業の必要性や効率性などを客観的に評価することで、着実な進行管理を行います

施策を実現させるための具体的な手段である「事務事業」については、数値目標等を中心に、事業の実施結果の達成度を把握するとともに、施策全体の推進に寄与しているかを確認し、事業の必要性や有効性、効率性などを客観的に評価することで、着実な進行管理を行います。

## ② 外部評価

市民目線・専門的視点で、効率的・効果的に施策を推進するための評価を実施します

これまでは“内部評価結果の市民への分かりやすさ”を視点とする評価を実施してきましたが、今後は、学識経験者や市民の参画により、市民目線・専門的視点で、内部評価結果の公正性、適正性、妥当性等の検証を行うとともに、より効率的・効果的に施策を推進していくための評価を実施します。

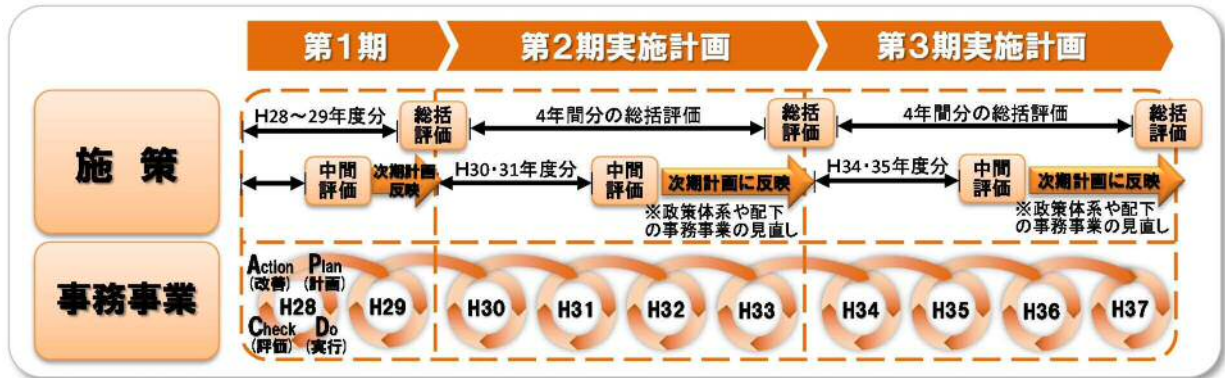


## (2) 評価スケジュール

施策の評価については、市の取組とその効果との関係を中期的な視点で検証し、効果的に次期計画や事務事業の見直しにつなげるため、概ね2年に一度実施します。

また、事務事業の評価については、着実な進行管理を行うために、毎年実施します

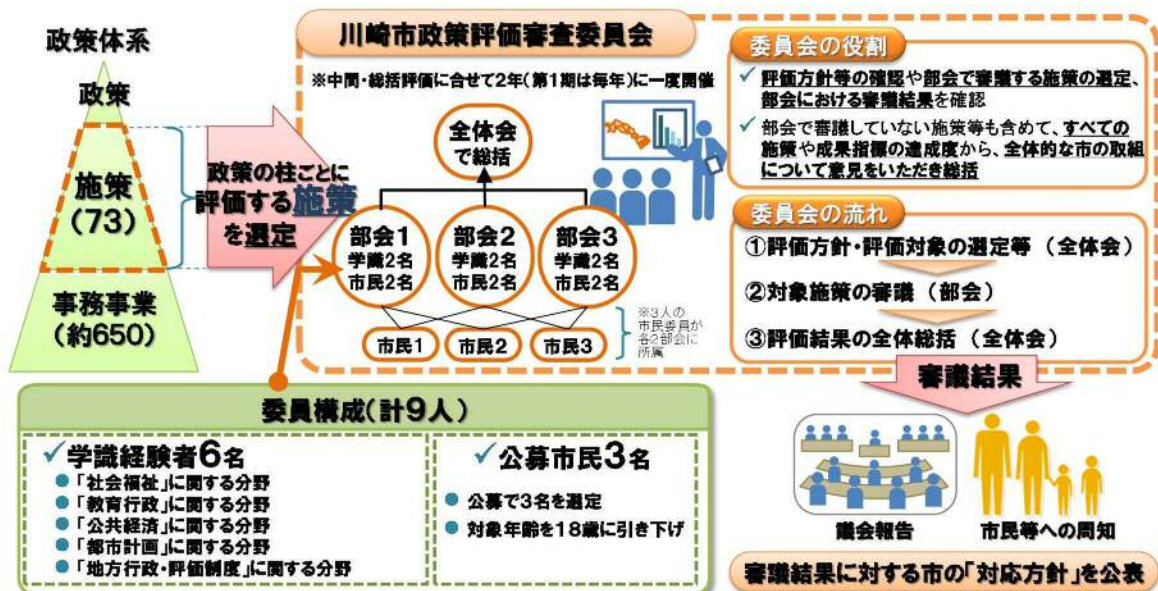
<図 1-4 進行管理・評価のスケジュール>



## (3) 附属機関（川崎市政策評価審査委員会）による外部評価

- 総合計画における重要な政策等の評価に関して調査審議するため、「川崎市政策評価審査委員会」を附属機関として設置し、学識経験者の専門的視点や市民目線による評価を実施し、より効果的に施策を推進します。
- 外部評価の対象は、委員の意見も踏まえ、政策ごとに施策を選定し、領域別に分けた部会の中で施策の説明を十分に行い、市の取組を重点的に審議します。
- 委員会が出された意見については、市の対応方針を作成・公表し、今後の取組改善や次期実施計画に活用します。

<図 1-5 川崎市政策評価審査委員会のイメージ>



### 3 政策評価審査委員会の各部会における審議結果について

部会において審議した結果、選定した12の施策について、市が行った内部評価（施策の進捗状況：A. 順調に推移した、B. 一定の進捗があった、C. 進捗が遅れた、D. 進捗は大幅に遅れた）の結果については、次のとおり、**透明性、客観性及び公正さが確保されており妥当である**と判断し、より効果的に施策を推進するための意見を次のとおりまとめました。

施 策 4	施策2-2-2 一人ひとりの教育的ニーズへの対応
施策の直接目標	支援が必要な児童生徒の学習環境を向上させる
成 果 指 標	① 支援が必要な児童の課題改善率 【(H26)81.8%⇒(H29 実績値)94.6%(H29 目標値:88%)指標達成度 a】
	② 1,000人あたりの暴力行為発生件数(中学校) 【(H26)8.29件⇒(H29 実績値)7.56件(H28 目標値:8.22件)指標達成度 a】
	③ いじめの解消率(小学校) 【(H26)65.8%⇒(H29 実績値)83.2%(H29 目標値:80%)指標達成度 a】
	④ いじめの解消率(中学校) 【(H26)83.2%⇒(H29 実績値)91.8%(H29 目標値:90%)指標達成度 a】
	⑤ 不登校児童生徒の出現率(小学校) 【(H26)0.38%⇒(H29 実績値)0.52%(H29 目標値:0.3%)指標達成度 d】
	⑥ 不登校児童生徒の出現率(中学校) 【(H26)3.48%⇒(H29 実績値)3.82%(H29 目標値:3.39%)指標達成度 b】
施策の達成状況	A. 順調に推移した
内部評価結果の妥当性	妥当と判断
<b>付 帯 意 見</b>	
<p>●さまざまな支援を必要とする児童・生徒が増えている中、小学校における児童支援コーディネーターの専任化などにより、支援の未実施率が低下してきていることは評価できる。今後は、課題を抱えた児童への支援の質を高めるため、児童支援コーディネーターの研修、校内の体制の強化、積み重ねてきた支援事例の全市における共有などをより一層進めていくことを望む。</p> <p>●小学校においては児童支援コーディネーターを中心とした学校内の支援体制の構築とともに、地域の子どもの居場所となりうる各種機関とも連携を密にし、児童・生徒一人ひとりの課題に応じた支援をより一層強化・推進していく必要がある。また、中学校においては、生徒指導担当を中心とした校内の連携体制や、関係機関との情報共有のしくみづくりに向けた検討を進め、生徒の交友関係や行動範囲が広がる中学校ならではの状況を踏まえた対応を図ることを望む。</p> <p>●就学前児童について、いわゆる「小1プロブレム」への対応や小学校において支援が必要な場合の事前調整に向けた情報共有を行うなど、幼稚園や保育園から小学校への接続を円滑に行えるよう関係機関が一層連携した取組を進めることを望む。</p> <p>●成果指標⑤については、目標値の設定が1%未満であるため、わずかな件数の増減が実績値に大きな影響を与え、達成度の判断を左右するような状況になっている。このような指標の場合、指標達成度の判断に際しては一定の幅を持たせた方がより実態に即した評価となると考えられるため、達成度の評価方法について検討していく必要がある。</p>	

第4章

第1期実施計画 総括評価  
施策評価シート

# 1 施策評価シート(第1期実施計画 総括評価)の見方

「施策評価シート(第1期実施計画 総括評価)」は、施策評価のツールとして、73の施策ごとに、施策の直接目標や成果指標に対して、どれだけの成果が得られたか等について、施策所管課が作成し、配下の事務事業の所管課と調整の上、取りまとめたものです。施策評価シートと記載内容の見方は、次のとおりです。

## 施策評価シート(第1期実施計画 総括評価)

1 施策の概要					
政策体系上の位置づけ	基本政策(1層)	生命を守り生き生きと暮らすことができるまちづくり			
	政策(2層)	災害から生命を守る	計画当初値(H27年)	最近実績値(H29年)	最終目標値(H37年)
	市民実感指標	① 災害に強いまちづくりが進んでいると思う市民の割合	15.6%	21.7%	25.0%
施策(3層)	施策コード	10101000 災害・危機事象に備える対策の推進			
	組織コード	176000 総務企画局危機管理室			
担当	組織コード	所 属 名			
関係課	総務企画局本庁舎等建替準備室、建設緑政局緑政部みどりの保全整備課、環境局環境対策部環境管理課、まちづくり局総務部まちづくり調整課、港湾局港湾経営部整備計画課				
施策の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大規模な災害が発生した際には、迅速で的確な災害対応を行う必要があるため、「地域防災計画」をはじめとした災害に関する計画等を整備し、災害時における情報連絡体制の確保に取り組むとともに、近隣自治体等との相互連携、防災訓練や図上訓練を実施するなど、さまざまな危機事象に対応できる危機管理体制の充実に取り組みます。</li> <li>●臨海部における総合的な防災力の向上を図るため、津波対策など臨海部の防災・減災対策に取り組みます。</li> <li>●災害発生時において、応急的な避難を行うための緊急避難場所等の確保、災害時に的確に情報伝達を行うための情報通信システムの整備、避難所における食料・飲料水や生活必需品の計画的な備蓄、公園における防災機能の向上、帰宅困難者対策等を推進します。</li> <li>●東日本大震災の教訓などを踏まえ、起きてはならない最悪の事態を想定し、大規模な自然災害が発生しても機能不全に陥らない、強しなやかな地域づくりを推進します。</li> <li>●災害への対応は、公助だけでなく自助・共助(互助)の取組が重要であることから、自主防災組織の活動の促進、企業や団体との防災に関する協定の締結など、災害時の協力体制を整えるとともに、家庭や事業所などにおける災害への備えについて周知・啓発を行い、いざという時に地域で互いに助け合えるしくみづくりに取り組むことで、地域防災力の向上を図ります。</li> <li>●本庁舎は、地震により倒壊し、又は崩壊する危険性があるとされており、耐震補強も困難であるため、災害対策活動の中核拠点として機能する耐震性能を確保するための建替えを行い、機能性や経済性、環境、文化、まちづくりなどにも配慮した庁舎の整備に取り組みます。</li> </ul>				
直接目標	災害発生時の被害や生活への影響を減らす				

①上位政策の状況を意識できるように、政策に掲げる「市民実感指標」を掲載しています。

②第1期実施計画に記載している、施策概要を記載しています。

③第1期実施計画に記載した成果指標を記載しています。

2 成果指標やその他成果などの状況と成果の分析							
実施計画に位置付けた指標名(指標の説明)							
成果指標	1	避難所運営会議を開催している避難所の割合	66.9	目標値②	69.3	70.5	%
		指標の	H26	実績値②	68	82.3	%
		説明	指標達成率③(④/⑤)	98.1%	116.7%	↑	
	2	避難所を知っている人の割合	39.5	目標値②	41.5	43.6	%
		指標の	H27	実績値②	39.1	46.0	%
		説明	指標達成率③(④/⑤)	94.2%	105.5%	↑	
3	家庭内備蓄を行っている人の割合	56.9	目標値②	57.2	57.5	%	
	指標の	H27	実績値②	52	50.2	%	
	説明	指標達成率③(④/⑤)	90.9%	87.3%	↑		
その他数値で把握できる補足指標(指標の説明)							
1	防災協力事業所の登録数	実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位	
	指標の	128	150	170	社		
2	津波避難施設数	実績	92	92	102	か所	
	指標の						

④【達成度のイメージ】各年度の成果指標の実績に伴い、次の条件により指標達成度が自動判定されます。

- a: 目標値以上
- b: 現状値(個別設定値)以上・目標値未満
- c: 目標達成率60%以上・現状値(個別設定値)未満
- d: 目標達成率60%未満

⑤成果指標以外の定量的な成果を記載しています。

⑥数値では把握できない定性的な成果を記載しています。

⑦指標等の成果分析を記載しています。

**定性的な成果**  
(取組を進めたことで発現した数値では測れない効果などについて記載)

- 防災に特化したタブロイド紙の市内73万戸への配布等により、各家庭での防災意識及び知識が高まりました。
- 各区複数回の総合防災訓練や備蓄物資の適正な配備や備蓄倉庫の環境整備などを通じ、区役所や地域住民等と連携した取組を推進したことで、地域連携の充実につながりました。
- 臨海部防災対策計画の策定や受援マニュアルの策定、保健医療調整本部の創設や危機管理監の設置等を反映した地域防災計画改定に向けた取組の推進など計画等の整備を図ることで、民間企業や他都市、市内が連携した防災体制が充実しました。
- 上記の危機管理施策を推進した結果として、避難所運営会議の開催率や避難所を知っている人の割合、災害に強いまちづくりが進んでいると思う市民の割合に良い影響を及ぼしたと考えます。

**指標等の成果分析**  
(指標の目標値達成を阻む外的要因を含めて記載)

- 本年度に実施した訓練や防災啓発等の取組によって、市民の防災意識が高まり、避難所運営会議を開催している避難所の割合、避難所を知っている人の割合、災害に強いまちづくりが進んでいると思う市民の割合が増加しました。
- 家庭内備蓄を行っている人の割合は、前年度の下げ幅からは鈍化しましたが、2年連続で下落しました。これについては、大規模災害後の防災意識に関する各種の調査から、大規模災害発生から時間が経つにつれ備蓄率が低下してきていることが明らかになっているほか、備蓄品の購入、とりわけ東日本大震災直後に購入した期限切れの備蓄品の買い替えには繋がらなかったことが原因と考えます。また、本市のアンケート調査の結果によると、特に、20代から30代の若年層の割合が低い傾向にあります。今後については、下落率の鈍化を図りつつ、中長期的に上昇に転じるよう、防災対策を行わない理由なども分析しながら、効果的な啓発を継続的に実施していきます。
- 内閣府が平成28年5月に公表した「日常生活における防災に関する意識や活動についての調査結果」では、食料や飲料水を蓄えている人の割合は38.2%となっており、全国的に取組が進んでいない状況にあります。

※1 指標達成度の目安【a. 目標値以上(100%以上)、b. 現状値以上～目標値未満、c. 60%以上～現状値未満、d. 59%以下】  
 ※2 指標達成度の目安【a. 目標値以上(100%以上)、b. 個別設定値以上～目標値未満、c. 60%以上～個別設定値未満、d. 59%以下】

### 3 施策を構成する主な事務事業の評価

番号	事務事業コード 事務事業名	サービス分類	事務事業の概要 (簡潔に記載)	主な取組の実績	事業費(千円)		事業の達成度	施策への貢献度	今後の事業の方向性
					予算額	決算額			
					H27年度				
					H28年度(決算額は見込み)				
1	10101010 防災対策管理運営事業	その他	地域防災計画や地震防災戦略の推進等、市の災害対応力の向上を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●熊本地震からの教訓等を踏まえた地域防災計画見直しの実施</li> <li>●国土強靱化地域計画推進委員会の実施による、計画の推進と全体の取組等の確認</li> <li>●同上訓練の実施による業務継続計画震災対策編の実効性の向上</li> </ul>	67,197	101,303	3	B やや貢献している	I 現状のまま継続
					65,193	172,792			
2	10101020 地域防災推進事業	イベント等	自主防災組織の育成、民間企業との連携、防災訓練を通じた防災意識の向上等を通じて、共助(互助)の取組を進め、地域防災力の向上を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●避難所運営会議の開催率の大幅増加</li> <li>●タブレット版防災広報紙の全戸配布</li> <li>●防災協力事業所向け研修の実施(2回)、防災シンポジウムへの参加事業所数の増加(25社→40社)</li> <li>●市総合防災訓練及び各区複数回の防災訓練の実施(計14回)</li> </ul>	108,923	173,477	3	B やや貢献している	II 改善しながら継続
					65,699	69,825			
3	10101030 防災施設整備事業	施設・管理・運営	防災関連の施設、各種情報通信システムを整備し、市の災害対応力及び地域防災力の向上を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●屋外受信機の増設及び別戸受信機の更新完了</li> <li>●次期総合防災情報システムの導入に向けた基本計画書及び情報化施策調査・業務調査の作成</li> <li>●鉄小倉庫対応に向けた新たな備蓄倉庫の設置</li> </ul>	1,640,250	1,362,613	3	B やや貢献している	I 現状のまま継続
					716,892	603,653			
4	10101040 臨海部・津波防災対策事業	その他	津波対策やコンビナート災害対策などを実施し、臨海部の総合的な防災力の向上を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●津波避難施設の新たな指定(8箇所)</li> <li>●臨海部広域防災訓練における、国・県、民間事業者・本市の船舶が連携した加圧化対策訓練の実施</li> <li>●川崎臨海部の防災対策(パンフレット)の改定</li> <li>●神奈川県石油コンビナート等防災計画の見直しを踏まえた臨海部防災対策計画の改定</li> <li>●東北大・東大・富士通と津波被害軽減に向けた研究の開始</li> </ul>	6,500	4,048	4	A 貢献している	II 改善しながら継続
					10,950	8,438			
					3,694	2,262			
5	10101050 帰宅困難者対策推進事業	その他	一斉帰宅の抑制の周知や帰宅困難者用一時滞在施設の確保等を行い、災害時における混乱を抑制するとともに、二次災害を防止します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●帰宅困難者用一時滞在施設の新規指定による、本年度目標の達成(収容人数20,000人)</li> <li>●東京オリンピック・パラリンピック等を見据えた外国人(約80名)参加による実動訓練の実施(川崎駅)</li> <li>●主要駅(武蔵小杉駅、溝口駅)における実動訓練の実施</li> </ul>	19,775	16,237	3	B やや貢献している	II 改善しながら継続
					2,802	2,413			
					8,319	5,796			
6	10101060 公園防災機能向上事業	その他	広域避難場所や幹線道路沿いなどの公園において、ソーラー照明灯や避難誘導標識などの防災関連施設を整備し、防災機能の向上を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●万福寺おやしろ公園におけるソーラー照明灯等の整備</li> </ul>	114,556	18,023	3	B やや貢献している	I 現状のまま継続
					66,900	66,841			
					23,670	8,732			
7	10101070 本庁舎等建替事業	その他	本庁舎等について災害対策活動の中核拠点としての耐震性能を確保するため、建替えの取組を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新本庁舎基本設計・実施設計</li> <li>●環境影響評価手続の実施</li> <li>●本庁舎の解体工事</li> </ul>	86,711	62,524	3	A 貢献している	I 現状のまま継続
					365,407	228,317			
8	10101110 港湾施設改修(防災・減災)事業	施設・管理・運営	大規模災害時における緊急物資等の輸送機能を確保するため、新築岸壁の整備を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●千鳥町7号岸壁耐震改修工事の実施</li> <li>●緊急物資輸送道路の液状化対策(埋設管付近の段差抑制)工事の実施</li> </ul>	2,605,663	592,155	3	B やや貢献している	I 現状のまま継続
					2,732,023	327,697			
					646,547	264,020			

⑧事務事業の概要を記載しています。

⑨事務事業の主な取組を記載しています。

⑩経年の事務事業の達成度や事業費を記載しています。

⑪事務事業評価シートに記載した、施策への貢献度や今後の事業の方向性を記載しています。

### 4 施策の進捗状況

施策の進捗状況 (指標等の成果を中心に施策を構成する事務事業の評価差から総合的に評価)	区分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
	<ul style="list-style-type: none"> <li>A 順調に推移(目標達成している)</li> <li>B 一定の進捗がある(目標達成に向けて進捗している)</li> <li>C 進捗は遅れている(目標達成が遅れる可能性がある)</li> <li>D 進捗は大幅に遅れている(目標達成が難しい可能性がある)</li> </ul>	B	B

⑫指標等の成果を中心に施策を構成する事務事業の評価等から総合的に評価した、施策の進捗状況結果を記載しています。

### 5 今後の方向性

今後の事業構成の妥当性 (手段は妥当か?)	区分	選択区分	「事業構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
	<ul style="list-style-type: none"> <li>I 効果的な事業構成である(現状のまま継続する)</li> <li>II 概ね効果的な構成である(一部見直し等の余地がある)</li> <li>III あまり効果的な事業構成でない(見直し等の余地が大きい)</li> <li>IV 事業構成に問題がある(根本的な見直し等が必要である)</li> </ul>	II	II

⑬施策の成果等を見ながら、上記事業構成を確認し、次期計画等に向けて、事業の見直し等を行う必要があるか確認し、それらを踏まえた今後の方向性を記載しています。

< 「施策」の進捗状況区分 >

記号	進捗状況区分	該 当 例
A	順調に推移した (目標を達成した)	・ 施策に設定した成果指標の多くが目標値に達しており、配下の事務事業が順調に進捗した施策
B	一定の進捗があった (目標未達成のものがあるが一定の進捗があった)	・ 施策に設定した成果指標の多くが計画策定時の現状値から目標値に向かって進捗しており、配下の事務事業が概ね順調に進捗した施策
C	進捗が遅れた (現状を下回るものが多くあった)	・ 施策に設定した成果指標のうち、計画策定時の現状値を下回る指標が多い施策や、配下の事務事業のうち複数の事業が遅れた施策
D	進捗は大幅に遅れた (現状を大幅に下回った)	・ 施策に設定した成果指標のうち、計画策定時の現状値を大幅に下回る指標が多い施策や、配下の事務事業のうち複数の事業が大幅に遅れた施策

< 「事務事業」の達成状況区分 >

区分	達成状況の区分	該 当 例
1	目標を大きく上回った	・ 目標に明記した期日よりも相当早く達成し、そのことによりコスト面や市民サービスに大きく貢献した。 ・ 目標に明記した内容よりも相当高い水準であった。 ・ 目標に明記した数値を大きく上回った。
2	目標を上回った	・ 目標に明記した期日よりも早めに達成し、そのことによりコスト面や市民サービスに貢献した。 ・ 目標に明記した期日どおり達成し、明記した内容よりも高い水準であった。 ・ 目標に明記した数値を上回った。
3	ほぼ目標どおり	・ 目標に明記した期日、内容どおりに達成した。 ・ 途中で多少の遅れはあったものの、最終期限には間に合う形で、目標に明記した内容どおりに達成した。 ・ 目標に明記した数値とほぼ同じであった。 ・ おおむね適正に処理し業務遂行に支障がなかった。
4	目標を下回った	・ 目標に明記した内容は達成したが、期日が遅れた。 ・ 目標に明記した期日どおりであったが、明記した内容に満たない水準であった。 ・ 目標に明記した数値を下回った。 ・ 所定の期日に間に合わないなど、業務を適正に処理できなかった。
5	目標を大きく下回った	・ 目標に明記した期日よりも遅れ、明記した内容に満たない水準であった。 ・ 目標に明記した数値を大きく下回った。

## **2 施策評価シート（第1期実施計画 総括評価）**

「川崎市総合計画」第1期実施計画に基づく73ある施策のうち、教育委員会事務局が所管する6つの施策評価シートを、次のページから掲載しています。

# 施策評価シート(第1期実施計画 総括評価)

1 施策の概要					
政策体系上の位置づけ	基本政策(1層)	子どもを安心して育てることのできるふるさとづくり			
	政策(2層)	未来を担う人材を育成する	計画当初値(H27年)	直近実績値(H29年)	最終目標値(H37年)
	市民実感指標	①「将来の夢や目標を持っている、どちらかといえば持っている」と回答した児童の割合【小6】	85.1%	83.9%	90.0%
		②「将来の夢や目標を持っている、どちらかといえば持っている」と回答した生徒の割合【中3】	69.7%	68.4%	75.0%
施策(3層)	施策コード	施策名			
	20201000	「生きる力」を伸ばし、人間としての在り方生き方の軸をつくる教育の推進			
担当	組織コード	所属名			
	881900	教育委員会事務局学校教育部指導課			
関係課	教育委員会事務局総務部教育改革推進担当、教育委員会事務局人権・共生教育担当、教育委員会事務局学校教育部健康教育課、教育委員会事務局健康給食推進室、教育委員会事務局川崎市総合教育センター				
施策の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子どもたちが将来に対する夢や希望を持ち、社会的自立に必要な能力や態度を育てていく教育がすべての学校に求められていることから、自尊感情や規範意識、学ぶ意欲、人と関わる力等を発達段階に応じて計画的に育む「キャリア在り方生き方教育」を進めます。</li> <li>●義務教育9年間の内容は、本来すべての子どもたちが身につけなくてはならないものです。また、学習指導要領のめざす「生きる力」は、生涯にわたる学びや暮らしのための基礎となる力でもあります。子どもたちの「生きる力」を伸ばしていくため、一人ひとりの「分かる実感」を大切にするなど、学ぶ意欲や態度を育むことを大切にしながら、「確かな学力」を育みます。</li> <li>●読書活動や音楽活動等を通じた「豊かな心」の育成や、身体を動かす楽しさを実感させる休み時間中の運動体験による体力の向上、川崎市らしい中学校完全給食の導入など、「すこやかな心身」の育成に取り組めます。</li> </ul>				
直接目標	すべての子どもが社会で自立して生きていくための基礎を培う学校をつくる				

2 成果指標やその他成果などの状況と成果の分析						
実施計画に位置付けた指標名(指標の説明)		現状値(年度)	目標・実績	H28年度	H29年度	単位等
成果指標	1 「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している、どちらかといえばしている」と回答した児童の割合【小6】	75.9	目標値①	76.6	77	%
			実績値②	78	78.8	
	指標の説明 全国学力・学習状況調査の市立校の全小中学生の対象学年の児童生徒の平均値	H26	達成率(②/①)	101.8%	102.3%	↗
			指標達成度 ※1	a	a	増減
	2 「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している、どちらかといえばしている」と回答した生徒の割合【中3】	66.7	目標値①	67.6	68	%
			実績値②	69.3	71.7	
	指標の説明 全国学力・学習状況調査の市立校の全小中学生の対象学年の児童生徒の平均値	H26	達成率(②/①)	102.5%	105.4%	↗
			指標達成度 ※1	a	a	増減
3 「授業が分かる、どちらかといえば分かる」と回答した児童の割合【小5】	88.3	目標値①	89.4	90	%	
		実績値②	89.5	90.9		
指標の説明 川崎市学習状況調査の市立校の対象学年全児童の平均値(小学校5年生:国語・算数・理科・社会、各教科の平均)	H26	達成率(②/①)	100.1%	101.0%	↗	
		指標達成度 ※1	a	a	増減	
4 「授業が分かる、どちらかといえば分かる」と回答した生徒の割合【中2】	73.4	目標値①	74.5	75	%	
		実績値②	76.1	77.2		
指標の説明 川崎市学習状況調査(H26)の市立校の対象学年全生徒の平均値(中学校2年生:国語・数学・社会・理科・英語、各教科の平均)	H26	達成率(②/①)	102.1%	102.9%	↗	
		指標達成度 ※1	a	a	増減	
5 体力テストの結果【小5男】	99.7	目標値①	99.9	100	-	
		実績値②	100	100		
指標の説明 小5男 川崎市(52.34点)／神奈川県(52.49点)×100 ※神奈川県(52.49点)の平均値(体力合計点)を100とした際の本市の割合。体力合計点は、種目ごとの測定値を点数化(10点満点)し、その合計点を平均したもの。	H26	達成率(②/①)	100.1%	100.0%	↗	
		指標達成度 ※1	a	a	増減	
6 体力テストの結果【小5女】	99.4	目標値①	99.8	100	-	
		実績値②	100.2	99.7		
指標の説明 小5女 川崎市(52.13点)／神奈川県(52.47点)×100 ※神奈川県(52.47点)の平均値(体力合計点)を100とした際の本市の割合。体力合計点は、種目ごとの測定値を点数化(10点満点)し、その合計点を平均したもの。	H26	達成率(②/①)	100.4%	99.7%	↗	
		指標達成度 ※1	a	b	増減	
7 体力テストの結果【中2男】	92.9	目標値①	97.6	100	-	
		実績値②	93.1	92.9		
指標の説明 中2男 川崎市(37.10点)／神奈川県(39.92点)×100 ※神奈川県(39.92点)の平均値(体力合計点)を100とした際の本市の割合。体力合計点は、種目ごとの測定値を点数化(10点満点)し、その合計点を平均したもの。	H26	達成率(②/①)	95.4%	92.9%	↗	
		指標達成度 ※1	b	b	増減	
8 体力テストの結果【中2女】	94.5	目標値①	98.2	100	-	
		実績値②	95.3	95.1		
指標の説明 中2女 川崎市(43.64点)／神奈川県(46.18点)×100 ※神奈川県(46.18点)の平均値(体力合計点)を100とした際の本市の割合。体力合計点は、種目ごとの測定値を点数化(10点満点)し、その合計点を平均したもの。	H26	達成率(②/①)	97.0%	95.1%	↗	
		指標達成度 ※1	b	b	増減	



数値で把握できる補足指標（指標の説明）		実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	指標の説明	実績				
<b>定性的な成果</b> （取組を進めたことで発現した数値では測れない効果などについて記載）		<ul style="list-style-type: none"> <li>●キャリア在り方生き方教育への取組が「キャリア教育優良教育委員会」として文部科学大臣から表彰され、教育だよりで周知したことで、学校・保護者・市民への啓発が図られました。</li> <li>●ICT機器整備や研修の充実により、教員のICT活用指導力が向上したことで、児童生徒にとってより分かる授業の推進が図られています。</li> <li>●体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を分析し、体育に関する指導の改善に向けた取組を推進するため、各学校の休み時間や体育の授業、水泳・武道の授業等へ外部指導者を派遣することにより、児童生徒が運動に親しめる体育の環境づくりが図られています。</li> <li>●中学校完全給食の実施により、「給食時間には皆で同じ給食を食べる安心感が生まれ生徒間のコミュニケーションが豊かになった」、「不登校の生徒が登校するようになった」等の報告がありました。</li> <li>●定時制生徒自立支援事業では、「人間関係に強い不安を抱いている生徒が、アルバイトができるようになった」「スタッフとの交流や相談によって、悩みが解決し学校を辞めずに済んだ」等の報告がありました。</li> </ul>				
<b>指標等の成果分析</b> （指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載）		<ul style="list-style-type: none"> <li>●「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している」と回答した児童生徒の割合が増えています。全校での「キャリア在り方生き方教育」への取組や教職員の事業への理解と協力が進んできたことの現れと捉えています。</li> <li>●学力テストの結果について、小学校は、ほぼ数値目標を到達していますが、中学校は、まだ数値目標は下回っています。中学校が下回っている要因として、本市の多くの中学校の計測時期が年度初めに集中しており、体育の授業等の取組が進んでいない早期の時期に開催していること、また、本市の経年変化からは徐々に上昇傾向が見られるものの、目標値である神奈川県の結果も上昇しており、その上昇率の差があることなどが考えられます。</li> </ul>				

※1 指標達成度の目安【 a. 目標値以上(100%以上)、b. 現状値以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～現状値未満、d. 目標達成率60%未満】

※2 指標達成度の目安【 a. 目標値以上(100%以上)、b. 個別設定値(「指標の説明」欄に記載)以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～個別設定値未満、d. 目標達成率60%未満】

### 3 施策を構成する主な事務事業の評価

番号	事務事業コード 事務事業名	サービス分類	事務事業の概要 (簡潔に記載)	主な取組の実績	事業費(千円)		事業の達成度	施策への貢献度	今後の事業の方向性
					予算額	決算額			
1	20201010 キャリア在り方生き方教育推進事業	その他	将来の社会的自立に必要な能力や態度を育てていく教育を平成28年度から全校で実践するため、手引きの配布や研修により、「キャリア在り方生き方教育」についての理解を深めるとともに、指導体制の構築や、家庭との連携を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「手引き」を活用した各実践校の支援及び研究推進校3校の情報交換会(3回)と研究推進校報告会の開催</li> <li>●キャリア在り方生き方ノート(活用及び30年度版)の作成・配布</li> <li>●キャリア在り方生き方教育の全校実施及び取組の支援を図る教員研修の実施(延べ48回)</li> <li>●保護者・教員用リーフレットの作成・配布</li> </ul>	9,569	6,899	3	A 貢献している	I 現状のまま継続
					6,673	4,237			
					5,349	3,504			
2	20201020 学力調査・授業改善研究事業	その他	学力の状況を的確に把握するために、調査・研究を行い、その結果を活用して、子どもたちが「分かる」を実感できる授業づくりを推進します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市学習状況調査・市学習診断テストの実施及び個票の配布</li> <li>●全国学力・学習状況調査の結果に基づく各実践校の授業改善の推進</li> <li>●学習指導要領実践事例集の作成・配布</li> </ul>	55,070	51,735	3	B やや貢献している	I 現状のまま継続
					47,607	45,311			
					48,096	45,736			
3	20201030 きめ細やかな指導推進事業	その他	習熟の程度に応じた、きめ細やかな指導の充実のために、より有効な指導形態や指導方法について研究実践を進めます。また、少人数学級・少人数指導等を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●研究推進校の研究総括をもとにした「きめ細やかな指導・実践編」の作成</li> <li>●「きめ細やかな指導 手引き編」の活用による全校での指導の推進</li> <li>●少人数学級・少人数指導の推進</li> <li>●オンライン学習サービスの検証及び効果の実証</li> </ul>	95,461	91,155	3	A 貢献している	I 現状のまま継続
					95,084	90,356			
					101,156	81,641			
4	20201040 英語教育推進事業	その他	外国人と直接コミュニケーションを図る機会を増やし、異文化を受容する態度を育成するため、小・中・高等学校へ外国語指導助手(ALT)を配置します。また、教員研修の充実を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ALTの配置拡充(81校)</li> <li>●他の教員を指導する立場の英語教育推進リーダーの養成(小2名、中2名、高1名)</li> <li>●英語教育推進リーダーによる外国語(英語)教育指導力向上研修の実施(各校種5～6回、14時間程度)</li> </ul>	307,546	307,532	3	A 貢献している	III 事業規模拡大
					307,546	307,532			
					336,624	336,623			
5	20201050 理科教育推進事業	その他	企業や研究機関、大学と連携して、技術者、研究者の派遣授業などを実施するとともに、理科支援員の配置や中核理科教員(CST)の養成などにより、観察・実験の機会を充実することで、魅力ある理科教育を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●理科支援員を全小学校に配置</li> <li>●CST養成プログラムの実施(養成数:全62人)</li> <li>●市内小・中学校でのCST実習生の受入(3校)</li> <li>●CST修了者による教員研修の実施(4回)</li> <li>●先端科学技術者の派遣授業の実施(16回)</li> </ul>	17,897	17,324	3	B やや貢献している	I 現状のまま継続
					17,870	17,209			
					17,367	16,927			
6	20201060 小中連携教育推進事業	その他	新しい環境での学習や生活へ移行する段階で、不登校などにつながる「中1ギャップ」が見られることから、小中9年間の系統的な教育の実施と、小学校から中学校への接続の円滑化を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全51中学校区の連携教育推進協議会を活かした教職員の連携・協働及び児童生徒の交流</li> <li>●2中学校区におけるカリキュラム開発研究の推進(2年の継続研究の1年目)</li> <li>●実践報告集の編集・配布及び小中連携教育担当者会議の開催による有効な取組の共有</li> </ul>	3,666	3,654	3	B やや貢献している	I 現状のまま継続
					3,666	3,767			
					3,658	3,515			
7	20201070 読書のまち・かわさき推進事業	その他	子どもから大人までが読書に親しめるよう、さまざまな読書活動を推進するため、学校図書等の配置を含めた読書環境の整備を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●総括学校司書の配置(21名)</li> <li>●学校図書モデル配置校の拡大(21校)</li> <li>●川崎フロンターレとの連携による読書推進リーフレットの作成・配布(7万部)や読書普及イベントの開催</li> <li>●「読書のまち・かわさき 子ども読書活動推進計画(第3次)」の策定</li> </ul>	28,435	28,437	3	A 貢献している	III 事業規模拡大
					31,625	31,600			
					34,861	34,689			
8	20201080 子どもの音楽活動推進事業	イベント等	子どもが音楽に親しみ、豊かな感性を育てよう、本格的なオーケストラ鑑賞や、市内の貴重な音楽資源を活用した音楽の体験活動を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ミュージアム川崎シンフォニーホールでの「子どものためのオーケストラ鑑賞」の実施(体験人数:9,239人)</li> <li>●「子どもの音楽の祭典」の実施</li> <li>●昭和音楽大学及び洗足学園音楽大学と連携した「ジュニア音楽リーダー」育成のための専門的な指導の実施(実施校数:19校)</li> </ul>	20,923	20,854	3	B やや貢献している	II 改善しながら継続
					20,894	20,738			
					24,019	23,846			
9	20201090 人権尊重教育推進事業	その他	子どもたちの人権感覚や、人権意識の向上を図ります。また、「子どもの権利に関する条例」の周知と正しい理解の促進を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人権尊重教育推進会議の開催(2回)</li> <li>●人権研修の実施(参加者数:2,540人)</li> <li>●人権尊重教育補助教材・子どもの権利学習資料の作成・配布</li> <li>●参加型学習への講師の派遣(講師派遣数:382人)</li> </ul>	6,510	6,239	3	A 貢献している	I 現状のまま継続
					6,573	5,938			
					6,590	6,080			

10	20201100	その他	子どもたちの異文化理解と相互尊重をめざした学習を推進します。また、多文化共生と多様性を尊重した意識と態度の育成を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●外国人市民等の講師としての派遣(延べ151人)</li> <li>●外国人教育推進連絡会議の開催(2回)</li> <li>●「学校の中でできる多文化ふれあい交流会」の開催による各学校の情報交換(1回)</li> </ul>	973	977	3	A 貢献している	I 現状のまま継続
	973				958				
	1,027				1,071				
11	20201110	その他	児童生徒の健全な心身の育成をめざし、地域スポーツ人材を活用しながら学校体育活動を充実します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中学校総合体育大会、市立小学校地区別運動会、小学校陸上記録会の実施</li> <li>●モデル校での実践を踏まえた「子どもの体力向上課題対策プロジェクト」の実施</li> <li>●武道等指導者の派遣(派遣校数:60校)</li> <li>●部活動指導者の派遣(派遣校数:43校)</li> <li>●オリンピック・パラリンピアン交流推進事業の実施(10校)</li> </ul>	77,316	70,180	3	B やや貢献している	I 現状のまま継続
	75,365				69,436				
	85,023				71,941				
12	20201120	その他	すこやかな学校生活を送るため、健康診断や健康管理の実施、学校医等の配置を行います。また、望ましい生活習慣の確立、心の健康保持、喫煙・飲酒・薬物乱用防止等、健康教育の充実を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育等の健康教育の推進</li> <li>●児童生徒のアレルギー疾患への適切な対応の推進</li> <li>●学校保健安全法に基づく各種健康診断の実施</li> <li>●スクールヘルスリーダー派遣による若手の養護教諭等の支援(派遣数:4名)</li> </ul>	501,571	490,574	3	B やや貢献している	I 現状のまま継続
	496,175				489,255				
	500,484				494,220				
13	20201130	その他	中学校完全給食の全校実施に向けた取組を進めます。また、中学校完全給食を活用した食育推進の取組を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●9月に南部、12月に中部・北部学校給食センターの稼働による、市立中学校全校での完全給食の実施</li> <li>●PFI方式による市内3か所の学校給食センターの整備及び計画的な事業推進</li> <li>●「健康給食」をコンセプトとした、米飯給食を中心に野菜を豊富に取り入れた献立や、地場産物を取り入れた献立の提供</li> </ul>	3,207,242	3,313,937	3	A 貢献している	I 現状のまま継続
	846,887				818,566				
	2,007,597				4,786,738				
14	20201140	その他	児童生徒の健全な身体への発達に資するため小学校等において、安全で安心な学校給食の提供を効率的に行います。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各校の食育の取組事例を全校に周知することによる、年間指導計画等の内容の底上げ</li> <li>●県給食会との連携による、県内産食材をより多く使用した給食の提供(年3回)</li> <li>●老朽機器の更新(34校)</li> <li>●学校給食業務委託化の推進(2校)</li> </ul>	1,754,323	1,696,657	3	B やや貢献している	II 改善しながら継続
	1,779,312				1,699,496				
	1,888,423				1,801,628				
15	20201150	その他	「教育の情報化推進計画」に基づき、ICT機器整備や研修の充実を図り、児童生徒の情報活用能力の育成、教員の指導力の向上、学校業務の効率化による教員の子どものふれあう時間の確保に取り組まします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「川崎市立学校における教育の情報化推進計画」に基づく事業の推進</li> <li>●モデル校での授業を通じた児童生徒の情報活用能力の育成等についての検証</li> <li>●教員の授業力向上のための研修の実施(計30回)</li> <li>●校務支援システムの安定的な運用及び課題整理</li> </ul>	1,413,193	1,393,713	3	B やや貢献している	I 現状のまま継続
	1,703,646				1,668,672				
	1,705,541				1,701,982				
16	20201160	その他	「市立高等学校改革推進計画」に基づく取組を進めるとともに、生徒・保護者・市民のニーズに応じた、魅力ある高校づくりを推進します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●商業高校定時制商業科の川崎総合科学高校への移管</li> <li>●幸高校全日制普通科の開設及び施設改修・環境整備</li> <li>●聴講生制度(6コマ)、図書館の開放(250日)、開放講座(10回)の実施</li> <li>●定時制生徒の将来の自立に向けたモデル事業の拡充(2校)</li> </ul>	60,927	69,484	3	B やや貢献している	I 現状のまま継続
	68,633				62,495				
	40,258				36,249				
17	20201170	その他	川崎高校及び附属中学校において、6年間の体系的・継続的な、特色ある教育を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高い志を持って主体的に学び、国際社会で活動するための資質を身につけた生徒の育成</li> <li>●6年間の体系的・継続的な教育の推進</li> <li>●研修等による人材育成と教員養成の推進</li> <li>●附属中学校入学者の募集及び決定事務の適正な実施</li> </ul>	2,525	1,694	3	B やや貢献している	I 現状のまま継続
	2,206				1,595				
	2,530				2,249				

4 施策の達成状況			
	区分	選択区分	達成状況区分を選択した理由
<b>施策の達成状況</b> (指標等の成果を中心に施策を構成する事務事業の評価等から総合的に評価)	<b>A. 順調に推移した</b> (目標を達成した) <b>B. 一定の進捗があった</b> (目標未達成のものがあるが一定の進捗があった) <b>C. 進捗が遅れた</b> (現状を下回るものが多くあった) <b>D. 進捗は大幅に遅れた</b> (現状を大幅に下回った)	<b>A</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●配下の事務事業の取組は、掲げた目標どおりに進捗しました。</li> <li>●キャリア在り方生き方教育の全市での実施は目標を達成していますが、児童生徒のキャリア形成のためには各学校における取組の改善と継続が必要であり、今後も各学校の実情に応じた学校支援や研修を継続して事業を推進します。</li> <li>●全ての中学校区において、小・中学校間の連携は深まりつつあり、9年間を通じた学校教育を行うことにより、子どもたちにとってより効果的な学びを実践することができました。</li> <li>●総括学校司書や学校司書の適正配置を進めることで、児童生徒の読書活動の充実につながっています。</li> <li>●子どもたちが音楽のすばらしさや楽しさを味わうことで、豊かな心の育成につながっています。</li> <li>●体力テストの結果について、長期的な低下傾向に歯止めがかかり、向上傾向に転じつつあり、成果が上がっています。</li> <li>●中学校完全給食の実施により、将来の川崎市を担う子どもたちに、国の「学校給食摂取基準」に基づく栄養バランスの良い献立の提供や学校給食を活用したさらなる食育の充実を図るなど「すこやかな心身の育成」に寄与し、また、学校生活が豊かになるなどの効果が表れていることから、施策に貢献したものと考えます。</li> <li>●ICT機器整備や研修の充実により教員の授業力が向上したことで、授業を通じて児童生徒の情報活用能力の育成がはかられています。</li> <li>●市立高校再編に伴う施設整備や各校の特色ある教育に関する市民への周知活動への支援を行いました。</li> <li>●定時制生徒の将来の自立に向けた事業のモデル校を2校に拡充しました。</li> <li>●6年間の体系的な特色ある教育を推進するために、総合的な学習の時間や授業におけるICTの効果的な活用などについて校内で研究し、それをもとに取組を進めました。</li> </ul>

## 5 今後の方向性

	区分	選択区分	「事業構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
<p><b>今後の事業構成の妥当性</b> (手段は妥当か?)</p>	<p>I. 効果的な事業構成である (現状のまま継続する) II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な事業構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 事業構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)</p>	<p><b>I</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●キャリア教育については新学習指導要領にもその内容が盛り込まれ、社会的な必要性が高まっていることから、現在の取組を継続して進めていきます。</li> <li>●入学・進級・卒業等に伴って毎年、児童生徒が入れ替わる中、小中接続に関する課題を連携校間において共有し、協働してその解決に努めつづける必要があります。加えて、教育課程の多様化・複雑化や学習指導要領の改訂等により、カリキュラムマネジメントの在り方も検討する必要があるため、引き続き事業を推進していきます。</li> <li>●総括学校司書や学校司書の適正配置に引き続き取り組みます。</li> <li>●より多くの子どもたちが参加できるよう、オーケストラ鑑賞の開催場所等を増やします。</li> <li>●子どもの体力向上推進事業については、体力テストの結果が経年変化では緩やかに上昇傾向が見られることから、現在、取り組んでいる事業を継続して進めていきます。</li> <li>●中学校完全給食の全校実施を機に、子どもたちの心身の健全な発達のため、小中9年間を通じた食育の推進など、引き続き取組を進めていきます。</li> <li>●「川崎市立学校における教育の情報化推進計画」に基づき、さらなる教育の情報化の実現に向け、引き続き事業を推進していきます。</li> <li>●生徒や保護者からの多様なニーズに応える市立高校再編に基づく各校の取組の推進や、地域への開放を通じた地域住民との交流を通じて、魅力ある高校づくりを進めます。</li> <li>●中学校と高等学校との円滑な接続による学びの連続性を維持し、主体的に学び、国際社会で活躍するための資質を育成するための、特色ある教育活動を展開します。</li> </ul>

# 施策評価シート(第1期実施計画 総括評価)

1 施策の概要					
政策体系上の位置づけ	基本政策(1層)	子どもを安心して育てることのできるふるさとづくり			
	政策(2層)	未来を担う人材を育成する	計画当初値(H27年)	直近実績値(H29年)	最終目標値(H37年)
	市民実感指標	①「将来の夢や目標を持っている、どちらかといえば持っている」と回答した児童の割合【小6】	85.1%	83.9%	90.0%
		②「将来の夢や目標を持っている、どちらかといえば持っている」と回答した生徒の割合【中3】	69.7%	68.4%	75.0%
施策(3層)	施策コード	施策名			
	20202000	一人ひとりの教育的ニーズへの対応			
担当	組織コード	所属名			
	881900	教育委員会事務局学校教育部指導課			
関係課	教育委員会事務局総務部学事課、教育委員会事務局総務部教育改革推進担当、教育委員会事務局川崎市総合教育センター				
施策の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本市では、特別支援学校や特別支援学級に在籍する障害のある児童生徒が増加傾向にあるとともに、通常の学級においても、発達障害のほか、いじめや不登校、経済的に困難な家庭環境など、さまざまな支援を必要とする子どもが増加している現状があります。</li> <li>●そのような状況の中、すべての子どもが生き生きと個性を發揮しながら成長できるよう、一人ひとりの教育的ニーズに応じて、適切な相談・指導・支援を実施します。</li> </ul>				
直接目標	支援が必要な児童生徒の学習環境を向上させる				

2 成果指標やその他成果などの状況と成果の分析								
実施計画に位置付けた指標名(指標の説明)			現状値(年度)	目標・実績	H28年度	H29年度	単位等	
成果指標	1	支援に必要な児童の課題改善率	81.8	目標値(a)	86	88	%	
		指標の説明	H26	実績値(b)	91.3	94.6	%	
		課題が解消・改善した児童数(5,524人)／全小学校が把握した支援が必要な児童数(6,757人)×100(%)		達成率(b)/(a)	106.2%	107.5%	↗	
				指標達成度※1	a	a	増減	
	2	1,000人あたりの暴力行為発生件数(中学校)	8.29	目標値(a)	8.25	8.22	件	
		指標の説明	H26	実績値(b)	6.88	7.56	件	
		暴力行為発生件数(239件)／全生徒数(28,816人) × 1,000		達成率(a)/(b)	119.9%	108.7%	↘	
				指標達成度※1	a	a	増減	
	3	いじめの解消率【小学校】	65.8	目標値(a)	75.3	80	%	
		指標の説明	H26	実績値(b)	78.7	83.2	%	
		解消した件数(小:407件、中:154件)／認知件数(小:619件、中:185件) × 100(%)		達成率(b)/(a)	104.5%	104.0%	↗	
				指標達成度※1	a	a	増減	
4	いじめの解消率【中学校】	83.2	目標値(a)	87.7	90	%		
	指標の説明	H26	実績値(b)	87.1	91.8	%		
	解消した件数(小:407件、中:154件)／認知件数(小:619件、中:185件) × 100(%)		達成率(b)/(a)	99.3%	102.0%	↗		
			指標達成度※1	b	a	増減		
5	不登校児童生徒の出現率【小学校】	0.38	目標値(a)	0.33	0.3	%		
	指標の説明	H26	実績値(b)	0.41	0.52	%		
	不登校児童生徒数(小:271人、中:1,003人)／全児童生徒数(小:71,436人、中:28,816人) × 100(%)		達成率(a)/(b)	80.5%	57.7%	↘		
			指標達成度※1	c	d	増減		
6	不登校児童生徒の出現率【中学校】	3.48	目標値(a)	3.42	3.39	%		
	指標の説明	H26	実績値(b)	3.34	3.82	%		
	不登校児童生徒数(小:271人、中:1,003人)／全児童生徒数(小:71,436人、中:28,816人) × 100(%)		達成率(a)/(b)	102.4%	88.7%	↘		
	※「指標達成度b」の個別設定値:3.83%(過去の平均値)		指標達成度※2	a	b	維持		
数値で把握できる補足指標(指標の説明)				実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	支援に必要な児童への支援未実施率(児童支援コーディネーター専任化校のみ)			実績	0.62	0.48	0.64	%
	指標の説明	支援が必要と認知されながらも支援に着手できていない児童数／支援が必要な児童数 × 100(%)						
定性的な成果 (取組を進めたことで発現した数値では測れない効果などについて記載)		<ul style="list-style-type: none"> <li>●小学校全校で児童支援活動を推進する児童支援コーディネーターを専任化したことで、家庭訪問や電話連絡が適切に行えるようになり、保護者との共通理解や連携が図りやすくなりました。教育的ニーズのある児童生徒の課題改善に向け、児童支援コーディネーターや特別支援教育コーディネーターが窓口となり、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の支援人材の活用が進み、適切に関係機関との連携が図られるようになりました。</li> <li>●小学校での共生＊共有プログラムの取組が市内保育園で紹介され、研修会で取り上げられるなど、就学前からの事業の実践に関心が高まっています。</li> </ul>						
指標等の成果分析 (指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載)		<ul style="list-style-type: none"> <li>●小学校の不登校児童出現率について、児童支援コーディネーターが全校で専任化され、丁寧な見取りによって促進されたことで、長期欠席児童が不登校として計上されたものと考えます。</li> <li>●小中学校の不登校児童出現率の増加は、国や県の調査も同様の傾向であり、国や県によると要因の一つとして「教育の機会の確保等に関する法律」の制定により、学校に登校することのみを目標にするのではなく、家庭や関係機関と連携し、多様な支援を行うようになったことが考えられています。</li> </ul>						

※1 指標達成度の目安【 a. 目標値以上(100%以上)、b. 現状値以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～現状値未満、d. 目標達成率60%未満】  
 ※2 指標達成度の目安【 a. 目標値以上(100%以上)、b. 個別設定値(「指標の説明」欄に記載)以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～個別設定値未満、d. 目標達成率60%未満】

### 3 施策を構成する主な事務事業の評価

番号	事務事業コード 事務事業名	サービス分類	事務事業の概要 (簡潔に記載)	主な取組の実績	事業費(千円)		事業の達成度	施策への貢献度	今後の事業の方向性
					予算額	決算額			
					H27年度				
					H28年度				
					H29年度(※決算額は見込)				
1	20202010 児童支援コーディネーター専任化事業	その他	小学校における児童支援コーディネーター専任化により、ニーズに応じた支援体制を構築し、外部機関や幼稚園・保育園との連携、中学校への引継ぎ、若手教員の育成など、小学校段階における早期の適切な支援と教育を実施します。	●児童支援コーディネーターを努める教員の専任化(小学校全113校) ●児童支援活動推進会議や児童支援コーディネーター研修等による、資質の向上やコーディネーターを中心とした教育の推進体制の構築(研修実施数:6回)	102,489	90,251	3	A 貢献している	I 現状のまま継続
					131,891	130,470			
					212,785	197,571			
2	20202020 特別支援教育推進事業	その他	共生社会の形成をめざした支援教育の推進や、教育的ニーズに応じた多様な学びの場の整備、小・中・高等学校における支援体制の構築、教職員の専門性の向上等を図ります。	●特別支援教育サポーターの高校への配置拡充(21,310回) ●情緒関連通級10校への担当教員の配置による小中学校への支援 ●医療的ケアを必要とする児童生徒(14名)への看護師派遣の実施及びあり方の検討 ●各担当者向け必修研修の実施による専門性の向上(61回)	488,661	441,142	3	A 貢献している	III 事業規模拡大
					560,993	502,217			
					498,523	480,397			
3	20202030 共生・共育推進事業	その他	豊かな人間関係を育む「かわさき共生＊共育プログラム」を実践し、いじめ・不登校の未然防止を図るとともに、効果測定を活用して子どもへの理解を深め、児童生徒指導の充実を図ります。	●各学校における年間6時間のプログラムの実施及びエクササイズ集の改訂・配布 ●共生・共育担当者研修会(4月・8月)と要請校内研修等の実施(延べ36回) ●研究協力校情報交換会の開催による、各学校の取組の支援	10,051	9,739	3	B やや貢献している	I 現状のまま継続
					4,775	4,499			
					4,749	5,434			
4	20202040 児童生徒指導・相談事業	その他	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等を配置し、子どもたちの豊かな心を育むためにその活用を促進するとともに、関係機関との連携により児童生徒の抱える課題の解決を支援します。	●中学生死亡事件の再発防止策の検討結果に基づく取組の推進 ●スクールソーシャルワーカーの継続配置(8名) ●市立中学校へのスクールカウンセラーの配置 ●市立小学校、特別支援学校、高等学校への学校巡回カウンセラーの派遣(7名)	192,198	188,908	3	B やや貢献している	I 現状のまま継続
					192,583	192,874			
					192,169	189,248			
5	20202050 適応指導教室事業	その他	不登校の児童生徒の居場所として適応指導教室を運営し、小集団による体験活動・学習活動のほか、きめ細やかな相談活動を通して、状況の改善を図り、学校や社会への復帰につながるよう取り組みます。	●市内6か所での適応指導教室の運営による、不登校の子どもの自主性や、自尊感情の育成を通じた、学校や社会への復帰に向けた取組の推進 ●メンタルフレンド(ボランティア学生)の募集及び配置による、子どもたちの目線により近い、支援・相談の充実(メンタルフレンド配置数:13名)	78,498	79,373	3	B やや貢献している	I 現状のまま継続
					79,020	77,765			
					74,880	72,978			
6	20202060 海外帰国・外国人児童生徒相談事業	その他	学校と関係機関が連携して、日本語が不自由な児童生徒等の相談・就学体制づくりを進めます。また、日本語指導等協力者(学習支援員)を派遣するとともに、特別の教育課程による日本語指導体制づくりを進めます。	●海外帰国・外国人児童生徒に対する教育相談の実施(176件) ●日本語指導等協力者・学習支援員の派遣による日本語指導等の実施 ●帰国・外国人児童生徒教育担当者会の実施(2回) ●国際教室(日本語指導)の連絡協議会の実施(2回)	54,320	49,589	3	A 貢献している	I 現状のまま継続
					54,283	53,745			
					54,026	53,783			
7	20202070 就学援助・就学事務	その他	経済的理由のため就学が困難な児童生徒に対し、必要な援助金を支給します。また、法令に基づき、就学事務を適正に行います。	●就学援助を必要とする対象者への援助費の支給、及び就学援助システムの構築に向けた仕様の策定・業務フローの検討・業者選定の実施 ●就学事務システムの安定稼働及び就学事務システムを利用した就学事務の適正かつ円滑な実施	677,659	725,980	3	A 貢献している	II 改善しながら継続
					744,128	747,783			
					816,771	918,101			
8	20202080 奨学金認定・支給事務	補助・助成金	経済的理由のため修学が困難な高校生に対し、奨学金を支給します。また、経済的理由のため修学が困難な大学生に対し、奨学金を貸与します。	●高等学校奨学金の支給による支援の継続 ●大学奨学金の貸付による支援の継続、償還事務、制度見直しの検討	61,727	59,674	3	A 貢献している	I 現状のまま継続
					62,132	70,184			
					73,443	73,810			

### 4 施策の達成状況

施策の達成状況 (指標等の成果を中心に施策を構成する事務事業の評価等から総合的に評価)	区分	選択区分	達成状況区分を選択した理由
	<b>A</b> A. 順調に推移した (目標を達成した) B. 一定の進捗があった (目標未達成のものがあるが一定の進捗があった) C. 進捗が遅れた (現状を下回るものが多くあった) D. 進捗は大幅に遅れた (現状を大幅に下回った)		

## 5 今後の方向性

	区分	選択区分	「事業構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
<p><b>今後の事業構成の妥当性</b> (手段は妥当か?)</p>	<p>I. 効果的な事業構成である (現状のまま継続する) II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な事業構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 事業構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)</p>	<p><b>I</b></p>	<p>●全ての小学校において児童支援コーディネーターを核とした校内支援体制の整備をさらに促進するため、児童支援活動推進会議等によるコーディネーター間の情報共有や各種研修の実施等により、教育的ニーズのある児童の支援の充実を今後も推進していきます。また、切れ目のない支援を組織的に実施できるよう、中学校においても生徒指導担当教員と特別支援教育コーディネーターの連携を強化する等、校内支援体制構築を推進していきます。</p> <p>●特別支援学校や特別支援学級の在籍者数、また小中等学校の通常の学級における支援の必要な児童生徒の人数は増加傾向にあり、その教育的ニーズも多様化しています。このような教育的ニーズに応えるため、特別支援教育の推進を着実に進めます。</p> <p>●「かわさき共生＊共育プログラム」について、より効果的に実施されるためには、各学校の実情やニーズに応じた継続支援が必要です。今後も改訂したエクササイズ集を活用した効果的な支援の方法や内容について検討していきます。</p> <p>●スクールカウンセラー・学校巡回カウンセラー・スクールソーシャルワーカーによる相談活動については、不登校やいじめの問題だけでなく、子どもたちの豊かな心を育むためにその活用を促進し、専門性を生かした適切な相談活動を継続していきます。</p> <p>●不登校児童生徒が安全・安心に過ごし自己肯定感を高める居場所として、今後も適応指導教室の運営を継続します。</p> <p>●海外帰国・外国人児童生徒の教育相談、日本語指導等協力者の派遣数は増加傾向にあります。速やかな学校生活への適応に向け、日本語指導や母語を使用した心のケア、生活支援を実施すると共に、学校と保護者の連携もサポートしていきます。</p> <p>●就学援助としてこれまで7月に支給していた新入学児童生徒学用品費を、平成31年度に新たに小学1年生となる就学予定者の保護者に対し、新入学準備金として小学校入学前の3月に前倒しで支給する予定です。</p>



# 施策評価シート(第1期実施計画 総括評価)

1 施策の概要						
政策体系上の位置づけ	基本政策(1層)		子どもを安心して育てることのできるふるさとづくり			
	政策(2層)		未来を担う人材を育成する	計画当初値(H27年)	直近実績値(H28年)	最終目標値(H37年)
	市民 実感指標	①「将来の夢や目標を持っている、どちらかといえば持っている」と回答した児童の割合【小6】	85.1%	83.9%	90.0%	
②「将来の夢や目標を持っている、どちらかといえば持っている」と回答した生徒の割合【中3】		69.7%	68.4%	75.0%		
施策(3層)	施策コード	施策名				
	20203000	安全で快適な教育環境の整備				
担当	組織コード	所属名				
	880600	教育委員会事務局教育環境整備推進室				
関係課	教育委員会事務局総務部企画課、教育委員会事務局学校教育部健康教育課					
施策の概要	<p>●学校における子どもたちの安全を確保するために、安全教育と安全管理の両面からの取組が求められています。そのため、スクールガード・リーダーや地域交通安全員を配置し、地域におけるさまざまな危険から子どもたちを守る取組を推進します。また、地域と連携した防災訓練などに取り組み防災教育研究推進校を中心として各学校の防災力の向上を図るとともに、子どもたちの防災意識を高めます。</p> <p>●学校施設は、全体のおよそ7割が築年数20年以上を経過し、老朽化が進んでいます。老朽化した学校施設を建て替えるためには、多額の経費が必要とされることから、当面は改修(学校施設の再生整備と予防保全)を基本として対策を進めます。外壁や屋上防水などの老朽化対策、トイレの快適化やバリアフリー化などの教育環境の改善、自然採光を取り入れるなどの環境対策、停電時の電源確保などの避難所機能の向上をあわせて実施することによって、限られた財源を有効に活用し、学校施設の長寿命化や教育環境の向上を早急に進めます。</p> <p>●将来的な児童生徒数の減少に備えて、校舎等の規模を最適化するための検討を進めるとともに、当面の児童生徒の増加傾向を注視しながら、通学区域の変更や、校舎の増築、小学校の新設等を計画的に行います。</p>					
直接目標	安全で快適に過ごせる学習環境を整える					

2 成果指標やその他成果などの状況と成果の分析								
実施計画に位置付けた指標名(指標の説明)			現状値(年度)	目標・実績	H28年度	H29年度	単位等	
成果指標	1	児童生徒の登下校中の事故件数	29	目標値(a)	28	27	件	
		指標の説明 市立小学校及び中学校の登下校時における事故報告の合計(直近5年間の平均値)	H22~H26の平均	実績値(b)	28	27		
				達成率(a)/(b)	100.0%	100.0%	↘	
				指標達成度※1	a	a	増減	
	2	老朽化対策及び質的改善が行われた学校施設の割合	24.1	目標値(a)	26.4	28.7	%	
		指標の説明 「築年数20年以下(H25時点)の学校施設数(40施設)+老朽化対策及び質的改善済の学校施設(2施設)÷全学校施設(174施設)	H27	実績値(b)	26.4	28.7		
				達成率(b)/(a)	100.0%	100.0%	↗	
				指標達成度※1	a	a	増減	
	3	指標の説明		目標値(a)				
				実績値(b)				
			達成率(b)/(a)					
			指標達成度※1					
4	指標の説明		目標値(a)					
			実績値(b)					
			達成率(b)/(a)					
			指標達成度※1					
数値で把握できる補足指標(指標の説明)				実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	学校トイレの環境整備校数			実績	86	93	100	校
	指標の説明 トイレの床がウエット式の学校を対象として、床のドライ化、便器の洋式化等を実施し、トイレの環境改善を図った学校数							
2	既存校のエレベータ設置校数			実績	107	119	130	校
	指標の説明 学校のバリアフリー化を目的として、エレベータを設置した学校数							
定性的な成果 (取組を進めたことで発現した数値では測れない効果などについて記載)		<p>●毎年、学校からの改善要望に対し、関係機関の協力のもと対策を実施しており、児童生徒が安心して登下校できる環境整備に一定の効果があつたものと考えます。</p> <p>●教育環境を早期に改善し、長寿命化の推進による財政支出の縮減と平準化を図るため、改修工事を計画通り実施し、老朽化対策や安全で快適に過ごせる学習環境の質的改善に一定の効果があつたものと考えます。</p>						
指標等の成果分析 (指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載)		<p>●関係機関の協力のもとに実施した通学路の安全対策や自転車安全教室の実施等、各学校での安全教育の取組を進めたことで、事故件数が減少傾向に向かっていると考えます。</p> <p>●学校施設長期保全計画に基づく再生整備及び予防保全を実施するため、まちづくり局等の関係部局と連携し、計画どおり推進することができました。</p>						

※1 指標達成度の目安【a. 目標値以上(100%以上)、b. 現状値以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～現状値未満、d. 目標達成率60%未満】

※2 指標達成度の目安【a. 目標値以上(100%以上)、b. 個別設定値(「指標の説明」欄に記載)以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～個別設定値未満、d. 目標達成率60%未満】



3 施策を構成する主な事務事業の評価									
番号	事務事業コード 事務事業名	サービス分類	事務事業の概要 (簡潔に記載)	主な取組の実績	事業費(千円)		事業の達成度	施策への貢献度	今後の事業の方向性
					予算額	決算額			
					H27年度				
					H28年度				
					H29年度(※決算額は見込)				
1	20203010 学校安全推進事業	その他	スクールガード・リーダーや地域交通安全委員の配置、通学路の交通危険か所の解消・改善に取り組み、児童の安全対策を推進します。また、防災教育研究推進校の指定や学校防災担当者の研修により、防災教育を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●スクールガードリーダーの配置による通学路の危険箇所のチェックや防犯パトロールの実施(20名)</li> <li>●地域交通安全委員の配置(92箇所)</li> <li>●通学路安全対策会議の開催による危険箇所の改善</li> <li>●防災教育推進校の指定及び各学校の実態に応じた防災教育の推進(指定校数:4校)</li> </ul>	202,493	196,111	3	B やや貢献している	I 現状のまま継続
					202,547	193,773			
					214,773	203,801			
2	20203020 学校施設長期保全計画推進事業	施設の管理・運営	既存学校施設の改修等の再生整備手法により、より多くの学校の教育環境改善を図るとともに、老朽化対策、質的改善、環境対策による長寿命化を推進します。また、計画的に予防保全を実施します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校施設の長寿命化・再生整備の推進(校舎の工事:17校、体育館の工事:16校)</li> </ul>	141,907	110,862	3	A 貢献している	II 改善しながら継続
					10,599,105	8,353,006			
					1,213,566	10,316,706			
3	20203030 学校施設環境改善事業	施設の管理・運営	教育環境の向上をめざし、トイレの快適化やバリアフリー化、エコスクール化を進めます。また、地域の防災力の向上のために、非構造部材の耐震化など、学校施設の防災機能の向上を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校トイレの環境整備(100校完了)</li> <li>●既存校のエレベータ設置(130校完了)</li> <li>●緑のカーテン設置(110校、145か所完了)</li> <li>●体育館の灯油式自家発電機の設置(136校完了)</li> </ul>	1,705,884	1,401,230	3	A 貢献している	III 事業規模拡大
					1,760,993	1,537,115			
					508,230	1,365,661			
4	20203040 学校施設維持管理事業	施設の管理・運営	学校施設・設備の保守・点検や維持管理、補修などを計画的に実施します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校施設・設備の保守・点検や維持管理、補修等の実施</li> <li>●消防設備の保守・点検、修繕</li> <li>●校舎(トイレ・窓ガラス等)の定期清掃</li> <li>●植栽管理</li> <li>●警備等の安全管理</li> <li>●学校廃棄物の適正処理及び減量化</li> </ul>	3,213,607	3,235,998	3	B やや貢献している	I 現状のまま継続
					3,058,381	3,155,003			
					3,465,574	3,236,211			
5	20203050 児童生徒増加対策事業	施設の管理・運営	児童生徒の増加に的確に対応するため、各学校の児童生徒数の将来推計値に基づき、教室の転用、校舎の増改築、新校設置、通学区域の見直し等の対応策を検討し、良好な教育環境の維持に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●小杉小学校新設に向けた校舎新築工事着手</li> <li>●新川崎地区の開発動向を踏まえた小学校新設時期の検討</li> <li>●校舎増築工事(5校)</li> <li>●小杉駅周辺地区の小学校の学校規模等を考慮した小杉小学校の通学区域設定</li> </ul>	4,440,802	7,348,318	3	A 貢献している	I 現状のまま継続
					5,180,196	4,877,784			
					3,557,716	4,001,118			
6									
7									

4 施策の達成状況			
施策の達成状況 (指標等の成果を中心に施策を構成する事務事業の評価等から総合的に評価)	区分	選択区分	達成状況区分を選択した理由
		A. 順調に推移した (目標を達成した) B. 一定の進捗があった (目標未達成のものがあるが一定の進捗があった) C. 進捗が遅れた (現状を下回るものが多くあった) D. 進捗は大幅に遅れた (現状を大幅に下回った)	A

5 今後の方向性			
今後の事業構成の妥当性 (手段は妥当か?)	区分	選択区分	「事業構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
		I. 効果的な事業構成である (現状のまま継続する) II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な事業構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 事業構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	I

# 施策評価シート(第1期実施計画 総括評価)

1 施策の概要						
政策体系上の位置づけ	基本政策(1層)		子どもを安心して育てることのできるふるさとづくり			
	政策(2層)		未来を担う人材を育成する	計画当初値(H27年)	直近実績値(H29年)	最終目標値(H37年)
	市民実感指標	①「将来の夢や目標を持っている、どちらかといえば持っている」と回答した児童の割合【小6】	85.1%	83.9%	90.0%	
		②「将来の夢や目標を持っている、どちらかといえば持っている」と回答した生徒の割合【中3】	69.7%	68.4%	75.0%	
施策(3層)	施策コード	施策名				
	20204000	学校の教育力の向上				
担当	組織コード	所 属 名				
	880100	教育委員会事務局総務部教育改革推進担当				
関係課	教育委員会事務局職員部教職員人事課、教育委員会事務局学校教育部指導課、教育委員会事務局川崎市総合教育センター					
施策の概要	<p>●地域に開かれた信頼される学校となるためには、学校の情報を地域と共有し、その運営に多くの地域住民が参加するとともに、子どもたちが地域の行事等に積極的に関わるなど、双方向の交流が大切です。そのため、保護者・地域住民が一体となって学校運営に取り組み、コミュニティ・スクールの成果を他の学校に波及させることなどにより、学校・家庭・地域が連携して、よりよい教育の実現をめざします。</p> <p>●子どもたちが、生き生きと学校生活を送るためには、誠実で、人間味や活力に富む教職員の存在が不可欠です。そのため、優秀な人材確保に努めるとともに、研修等の機会を通じて資質や指導力の向上を図ります。</p> <p>●平成29年度から、市立小・中学校等における学級編制基準(40人以下で1学級あたりの児童生徒の人数を定める基準)や、教職員の給与費の負担が、神奈川県から本市へ移管されます。より一層子どもたちの実情に沿った学校運営ができるよう、教職員配置のあり方を定めるとともに、円滑な移管に向けて準備を進めます。</p>					
直接目標	教職員の資質を高め、保護者や地域と連携して、よりよい学習活動(授業等)を実現する					

## 2 成果指標やその他成果などの状況と成果の分析

実施計画に位置付けた指標名(指標の説明)		現状値(年度)	目標・実績	H28年度	H29年度	単位等	
成果指標	1 「家で、自分で計画を立てて勉強をしている、どちらかといえばしている」と回答した児童の割合【小6】	58.4	目標値① 実績値②	58.8 59.5	59 62.6	%	
	指標の説明 全国学力・学習状況調査の市立校の対象学年全児童の平均値 ※「指標達成度b」の個別設定値:55.7%(過去の平均値)	H26	達成率(b/①) 指標達成度 ※2	101.2% a	106.1% a	↗ 維持	
	2 「家で、自分で計画を立てて勉強をしている、どちらかといえばしている」と回答した生徒の割合【中3】	45	目標値① 実績値②	45.3 46.5	45.5 50.3	%	
	指標の説明 全国学力・学習状況調査の市立校の対象学年全生徒の平均値 ※「指標達成度b」の個別設定値:42.8%(現状値の95%)	H26	達成率(b/①) 指標達成度 ※2	102.6% a	110.5% a	↗ 維持	
	3 「今住んでいる地域の行事に参加している、どちらかといえばしている」と回答した児童の割合【小6】	53.6	目標値① 実績値②	54.5 55.3	55 47.4	%	
	指標の説明 全国学力・学習状況調査の市立校の対象学年全児童の平均値	H26	達成率(b/①) 指標達成度 ※1	101.5% a	86.2% c	↗ 増減	
4 「今住んでいる地域の行事に参加している、どちらかといえばしている」と回答した生徒の割合【中3】	31.2	目標値① 実績値②	31.7 35	32 31.9	%		
指標の説明 全国学力・学習状況調査の市立校の対象学年全生徒の平均値 ※「指標達成度b」の個別設定値:29.7%(現状値の95%)	H26	達成率(b/①) 指標達成度 ※2	110.4% a	99.7% b	↗ 維持		
5 「学校生活が楽しい、どちらかといえば楽しい」と回答した児童の割合【小5】	93.3	目標値① 実績値②	93.3 93.5	93.3 94.4	%		
指標の説明 川崎市学習状況調査の市立校の対象学年全児童の平均値 ※「指標達成度b」の個別設定値:92%(過去の平均値)	H26	達成率(b/①) 指標達成度 ※2	100.2% a	101.2% a	↗ 維持		
6 「学校生活が楽しい、どちらかといえば楽しい」と回答した生徒の割合【中2】	89.9	目標値① 実績値②	90 90.2	90 89.9	%		
指標の説明 川崎市学習状況調査の市立校の対象学年全生徒の平均値 ※「指標達成度b」の個別設定値:88.6%(過去の平均値)	H26	達成率(b/①) 指標達成度 ※2	100.2% a	99.9% b	↗ 維持		
数値で把握できる補足指標(指標の説明)			実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	指標の説明		実績				

**定性的な成果**  
(取組を進めたことで発現した数値では測れない効果などについて記載)

●目まぐるしく変化する時代にあつて、コミュニティ・スクール(学校運営協議会設置校)に限らずすべての市立学校で、地域に開かれた信頼される学校づくりをめざし、学校・家庭・地域が連携したよりよい教育の実現に向けた特色ある取組が展開されており、それが子どもたちの健全育成に寄与していると評価しています。互いの課題や成果を共有しながら、それぞれの学校・地域の実態に即した取組を引き続き推進していくことが大切だと考えています。

**指標等の成果分析**  
(指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載)

●「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」「学校生活が楽しい」については、教職員の資質向上や一人一人の努力の継続に加え、家庭や地域との連携・協力が効果的に進んでいる結果、順調に増加または維持が図られていると分析しています。

●「今住んでいる地域の行事に参加している」についても同様の取組がなされていると考えていますが、一方で地域行事そのものの減少や衛生管理上の課題に伴う内容の変更や縮小など社会の変化に伴って、子どもたちが参加しづらい状況も生まれてきているのではないかと分析しています。

※1 指標達成度の目安【a. 目標値以上(100%以上)、b. 現状値以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～現状値未満、d. 目標達成率60%未満】  
 ※2 指標達成度の目安【a. 目標値以上(100%以上)、b. 個別設定値(「指標の説明」欄に記載)以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～個別設定値未満、d. 目標達成率60%未満】

3 施策を構成する主な事務事業の評価									
番号	事務事業コード 事務事業名	サービ ス分類	事務事業の概要 (簡潔に記載)	主な取組の実績	事業費(千円)		事業の 達成度	施策への 貢献度	今後の 事業の 方向性
					予算額	決算額			
					H27年度				
					H28年度				
					H29年度(※決算額は見込)				
1	20204010	その他	学校・家庭・地域社会が一体となって学校運営に取り組む学校運営協議会(コミュニティ・スクール)を各区に指定し、その取組成果を他の学校に波及させることなどにより、学校・家庭・地域社会が連携して、よりよい教育の実現をめざします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コミュニティ・スクールの指定及び運営支援(10校)</li> <li>●コミュニティ・スクール連絡会、コミュニティ・スクール・フォーラム等の開催による実践成果の普及・啓発</li> <li>●コミュニティ・スクール・ガイド2017の作成・配布による実践成果の普及・啓発</li> </ul>	16,695	15,477	3	B やや貢献している	I 現状のまま継続
	6,309				5,652				
	3,639				2,999				
2	20204020	その他	各区に配置した区・教育担当を中心に、区役所と連携しながら、学校と地域との連携強化や学校へのきめ細やかな支援を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●区における教育支援の推進</li> <li>・1～数年を見通した学校運営への支援</li> <li>・学校間及び学校と地域との連携強化</li> <li>・区役所関連部署等との連携・協働</li> <li>●区・学校支援センターによる学校支援協力者の新たな発掘や派遣の実施</li> </ul>	9,433	9,272	3	A 貢献している	I 現状のまま継続
	9,309				9,013				
	9,263				9,018				
3	20204030	その他	地域人材の活用を図るとともに、学校の自主性・自律性を高めるなど、特色ある学校づくりを進めます。また、学校の取組を自主的・自律的に改善するためのしくみとして学校評価を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「夢教育21推進事業」を活用した特色ある学校づくりの推進</li> <li>●自己評価及び学校関係者評価の実施(全市立学校)</li> <li>●ボランティアコーディネーターの配置(139校)</li> </ul>	165,733	160,148	3	B やや貢献している	I 現状のまま継続
	157,228				150,362				
	156,104				148,889				
4	20204040	その他	子どもたちとともに学び続ける教員であるために、ライフステージに応じた教職員研修を推進します。特に、学校全体の教育力向上をめざして、若手教員の資質向上とミドルリーダー育成の充実を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ライフステージ研修(13講座111回)、その他の必修研修(24講座104回)、希望研修(51講座129回)の実施及び、教員の育成指標・研修計画の作成</li> <li>●「輝け☆明日の先生の会」の実施(講話13回、ゼミ5回)</li> </ul>	22,854	18,498	3	B やや貢献している	II 改善しながら継続
	21,634				21,075				
	23,702				22,116				
5	20204060	その他	教職員採用に関する広報活動を充実させるとともに、試験方法や試験対象等について検討改善を加えながら、創意と活力にあふれた優秀な人材の確保を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地方会場・各大学等で実施する採用試験説明会での広報活動の充実による受験者数の確保や、大学推薦、教職経験・TOEIC等の資格を考慮した特別選考試験等による人物重視の採用選考の実施</li> </ul>	16,048	15,337	3	B やや貢献している	I 現状のまま継続
	15,566				13,935				
	12,135				11,595				
6									
7									

4 施策の達成状況			
施策の達成状況 (指標等の成果を中心に施策を構成する事務事業の評価等から総合的に評価)	区分	選択区分	達成状況区分を選択した理由
		A. 順調に推移した (目標を達成した) B. 一定の進捗があった (目標未達成のものがあるが一定の進捗があった) C. 進捗が遅れた (現状を下回るものが多くあった) D. 進捗は大幅に遅れた (現状を大幅に下回った)	B

5 今後の方向性			
今後の事業構成の妥当性 (手段は妥当か?)	区分	選択区分	「事業構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
		I. 効果的な事業構成である (現状のまま継続する) II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な事業構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 事業構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	II

# 施策評価シート(第1期実施計画 総括評価)

1 施策の概要					
政策体系上の位置づけ	基本政策(1層)	子どもを安心して育てることのできるふるさとづくり			
	政策(2層)	生涯を通じて学び成長する	計画当初値(H27年)	直近実績値(H29年)	最終目標値(H37年)
	市民実感指標	①「1年間に生涯学習をしたことがある」と回答した市民の割合 ②「自分の知識や技術を地域や社会に活かしたいと思う」と回答した市民の割合	25.2%	20.4%	30.0%
施策(3層)	施策コード	施策名			
	20301000	家庭・地域の教育力の向上			
担当	組織コード	所属名			
	882100	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習推進課			
関係課					
施策の概要	<p>●家庭での教育や子育ては、子どもが基本的な生活習慣や生活能力、人に対する信頼感、豊かな情操などを身につける上で重要な役割を果たしています。多くの家庭が家庭教育に力を注いでいる一方で、家庭環境の複雑化や地域社会の変化により、親子の育ちを支える人間関係が弱まり、教育や子育てについての悩みや不安を多くの家庭が抱えています。</p> <p>●このような中で、市民館などにおける家庭・地域教育学級、PTAによる家庭教育学級に加えて、企業等と連携して家庭教育事業を展開するなど、仕事を持つ父親や母親のほか、これまで各種事業を受講できなかった人が学べる機会を提供します。</p> <p>●中学校区や行政区単位で活動している地域教育会議では、青少年の健全育成に取り組む団体や、地域住民、教職員などが一体となって、顔の見える関係づくりや地域の教育課題の解決に取り組めます。</p> <p>●本市には、さまざまな経験や知識、社会貢献の意欲を持つシニア世代をはじめとする地域の幅広い世代の市民という、素晴らしい財産があります。このような市民が主体となって、子どもたちの学習や体験をサポートする「地域の寺子屋事業」を推進することにより、地域の多様な大人との関わりの中で、子どもたちの学ぶ意欲の向上や豊かな人間性の育成を図るとともに、さまざまな世代がそれぞれの社会的役割を実感しながら、育ち合う地域づくりを進めます。</p>				
直接目標	大人と子どもなど、地域での多世代の交流を増やすとともに、家庭教育の悩みを軽減する				

2 成果指標やその他成果などの状況と成果の分析							
実施計画に位置付けた指標名(指標の説明)			現状値(年度)	目標・実績	H28年度	H29年度	単位等
成果指標	1	親や教員以外の地域の大人と知り合うことができた割合	87.6	目標値a 実績値b	89.2 89.8	90 91.9	%
		指標の説明 寺子屋において「親や先生以外の大人と話すことができた」と答えた児童の数(444人)/寺子屋の学習支援参加者におけるアンケートの回答者数(507人)	H26	達成率(b/a) 指標達成度※1	100.7% a	102.1% a	↑ 増減
	2	家庭教育事業を通じて悩みや不安が解消・軽減した割合	91.4	目標値a 実績値b	91.7 92.4	92 95.6	%
	指標の説明 家庭教育事業において「悩みや不安が解消・軽減した」と答えた参加者の数(106人)/事業参加者におけるアンケートの回答者数(116人)※新規アンケートのため、H27.4-H27.12までの集計 ※「指標達成度b」の個別設定値:86.9%(現状値の95%)	H27	達成率(b/a) 指標達成度※2	100.8% a	103.9% a	↑ 維持	
3	指標の説明		目標値a 実績値b				
				達成率(b/a) 指標達成度※1			
数値で把握できる補足指標(指標の説明)			実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	泳力向上プロジェクトの参加者数	市内のスイミングスクールと連携して実施する、泳げない子どもを対象とした水泳教室の参加者数	実績	1,886	2,814	2,849	人
2	寺子屋先生の養成人数	寺子屋先生養成講座の開催により、養成した寺子屋先生の人数	実績	77	121	93	人
定性的な成果 (取組を進めたことで発現した数値では測れない効果などについて記載)		<p>●地域の寺子屋では、まちで寺子屋先生と子ども達が出会った時に挨拶しあえるような関係が生まれており、寺子屋の拡充に併せて、確実に子ども達と地域の大人との関わりができています。</p> <p>●市民館等の家庭・地域教育学級やPTAの家庭教育学級は参加する方の属性(子どもがいる保護者)が限定されていることから、毎年新たな参加者が生まれることとなります。この方たちが地域の教育力を支えていく人材になっていくことが望まれています。</p>					
指標等の成果分析 (指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載)		<p>●寺子屋先生養成講座による養成人数は減少していますが、寺子屋先生の確保については、該当校での保護者ボランティア募集、学区内の町内会での回覧による募集、市政だよりやHP等による募集など、養成講座以外の手法による人材確保も大きくなっています。</p> <p>●平成29年度では、約100人が養成講座以外の手法により、寺子屋事業の協力者として登録しました。</p>					

※1 指標達成度の目安【a. 目標値以上(100%以上)、b. 現状値以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～現状値未満、d. 目標達成率60%未満】

※2 指標達成度の目安【a. 目標値以上(100%以上)、b. 個別設定値(「指標の説明」欄に記載)以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～個別設定値未満、d. 目標達成率60%未満】

### 3 施策を構成する主な事務事業の評価

番号	事務事業コード 事務事業名	サービス分類	事務事業の概要 (簡潔に記載)	主な取組の実績	事業費(千円)		事業の達成度	施策への貢献度	今後の事業の方向性
					予算額	決算額			
					H27年度				
					H28年度				
					H29年度(※決算額は見込)				
1	20301010 家庭教育支援事業	参加・協働の場	子育て期の市民を地域全体で支え合う家庭教育環境を構築します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市民館等における家庭・地域教育学級等家庭教育に関する学習機会の提供</li> <li>●PTAによる家庭教育学級開催の支援(162校)</li> <li>●全市・各区「家庭教育推進連絡会」の開催(2回)</li> <li>●企業等との連携による家庭教育事業の実施(2回)</li> </ul>	2,689	2,629	3	A 貢献している	I 現状のまま継続
					2,756	2,330			
					2,897	2,501			
2	20301020 地域における教育活動の推進事業	参加・協働の場	市民の意欲・力を、社会全体の活力や地域の教育力の向上につなげられるよう支援します。また、「子どもの権利に関する条例」に基づき、地域における子どもの育ちや意見表明を促進します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●リーフレットや研修用DVDの発行及び研修会の開催</li> <li>●地域教育会議交流会の開催(1回)</li> <li>●子ども会議の開催や各行政区・各中学校区子ども会議との連携</li> <li>●市内スイミングスクールと連携した、泳げない子どもを対象とした水泳教室の開催(参加者数:2,849人)</li> </ul>	22,965	22,806	3	A 貢献している	I 現状のまま継続
					26,715	26,139			
					28,788	28,947			
3	20301030 地域の寺子屋事業	参加・協働の場	地域ぐるみで子どもの学習や体験活動をサポートし、多世代で学ぶ生涯学習の拠点づくりを進めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の実情に応じた寺子屋の拡充(目標:56か所→実績:38か所)及び次年度開講に向けた準備</li> <li>●寺子屋先生養成講座の開催(参加者数:93人)</li> <li>●寺子屋コーディネーター養成講座(養成数:26人)及び寺子屋同士の情報交換会の開催</li> <li>●地域の寺子屋フォーラム等の開催(参加者数:約550人)</li> </ul>	19,511	13,416	3	A 貢献している	III 事業規模拡大
					34,914	23,882			
					48,815	32,537			
4									
5									

### 4 施策の達成状況

施策の達成状況 (指標等の成果を中心に施策を構成する事務事業の評価等から総合的に評価)	区分	選択区分	達成状況区分を選択した理由
	<ul style="list-style-type: none"> <li>A. 順調に推移した(目標を達成した)</li> <li>B. 一定の進捗があった(目標未達成のものがあるが一定の進捗があった)</li> <li>C. 進捗が遅れた(現状を下回るものが多くあった)</li> <li>D. 進捗は大幅に遅れた(現状を大幅に下回った)</li> </ul>	A	

### 5 今後の方向性

今後の事業構成の妥当性 (手段は妥当か?)	区分	選択区分	「事業構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
	<ul style="list-style-type: none"> <li>I. 効果的な事業構成である(現状のまま継続する)</li> <li>II. 概ね効果的な構成である(一部見直し等の余地がある)</li> <li>III. あまり効果的な事業構成でない(見直し等の余地が大きい)</li> <li>IV. 事業構成に問題がある(抜本的な見直し等が必要である)</li> </ul>	I	

# 施策評価シート(第1期実施計画 総括評価)

1 施策の概要						
政策体系上の位置づけ	基本政策(1層)	子どもを安心して育てることのできるふるさとづくり				
	政策(2層)	生涯を通じて学び成長する		計画当初値 (H27年)	直近実績値 (H28年)	最終目標値 (H37年)
	市民 実感指標	①「1年間に生涯学習をしたことがある」と回答した市民の割合	25.2%	20.4%	30.0%	
		②「自分の知識や技術を地域や社会に活かしたいと思う」と回答した市民の割合	50.8%	51.5%	55.0%	
施策 (3層)	施策コード 20302000	施策名 自ら学び、活動するための支援				
担当	組織コード 882100	所属名 教育委員会事務局生涯学習部生涯学習推進課				
関係課						
施策の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>●さまざまな市民団体、大学等と連携しながら、市民が自ら学び、学んだ成果を地域づくりや市民活動に活かす生涯学習事業を展開し、いわゆる「知縁」による新たな絆や、コミュニティを創造するとともに、地域を支える活動や市民主体の学習を担う人材を育成します。</li> <li>●市民の主体的な学びを支援するため、子どもたちの教育活動に支障のない時間は校庭や体育館を開放するなど、学校施設の有効活用を促進するとともに、市民館や図書館など、市民が自ら学ぶ拠点となる社会教育施設におけるサービスの向上や長寿命化を推進し、生涯学習環境の充実を図ります。</li> </ul>					
直接目標	市民が生き生きと学び、活動するための環境をつくる					

2 成果指標やその他成果などの状況と成果の分析								
実施計画に位置付けた指標名 (指標の説明)			現状値(年度)	目標・実績	H28年度	H29年度	単位等	
成果 指標	1	教育文化会館・市民館・分館の社会教育振興事業参加者数	8.9	目標値①	9	9	万人	
		指標の説明 各年度における事業参加者数	H26	実績値②	8.9	8.4		
					達成率(②/①)	98.9%	93.3%	↗
					指標達成度 ※1	b	c	増減
	2	教育文化会館・市民館・分館施設利用率	56.6	目標値①	56.8	56.9	%	
		指標の説明 利用実績のある部屋数(89,031コマ)÷利用可能部屋数(157,128コマ) ※各施設の貸出部屋は、部屋ごとに1日3区分(午前・午後・夜間)に分けた利用が可能であり、それを3部屋とカウントする。(各年度) ※「指標達成度b」の個別設定値:55.1%(過去の平均値)	H26	実績値②	56.7	58.6		
					達成率(②/①)	99.8%	103.0%	↗
					指標達成度 ※2	b	a	維持
	3	市立図書館・分館における図書館の入館者数	433.7	目標値①	434.6	435	万人	
		指標の説明 各施設(普閲覧所を除く)の入り口に設置しているBDS(無断持出防止装置)による入館者数	H26	実績値②	409.4	400.8		
				達成率(②/①)	94.2%	92.1%	↗	
				指標達成度 ※1	c	c	増減	
4	学校施設開放の利用者数	260.9	目標値①	261	261	万人		
	指標の説明 市立学校で実施している施設開放事業の利用者数(体育館・校庭・特別教室の利用者数の合計) ※「指標達成度b」の個別設定値:247.9万人(現状値の95%)	H26	実績値②	267	270			
				達成率(②/①)	102.3%	103.4%	↗	
				指標達成度 ※2	a	a	維持	
5	社会教育振興事業を通じて新たなつながりが増えた割合	67.5	目標値①	68.3	69	%		
	指標の説明 社会教育振興事業において「新たなつながりが増えた」と答えた参加者の数(257人)÷事業参加者におけるアンケートの回答者数(381人) ※新規アンケートのため、H27.4～H27.12までの集計	H27	実績値②	70.4	67.1			
				達成率(②/①)	103.1%	97.2%	↗	
				指標達成度 ※1	a	c	増減	
数値で把握できる補足指標 (指標の説明)				実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	指標の説明			実績				
定性的な成果 (取組を進めたことで発現した数値では測れない効果などについて記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●社会教育振興事業の参加者が翌年度に企画委員として参加し、事業の企画段階から職員と共に関わっていくことで、市民の人材育成につなげていくことができました。</li> <li>●図書館ホームページのスマートフォン版の開発を行い、市民の利便性の向上を図るとともに、平成30年度にリプレースを予定している図書館総合システムの円滑な移行のため、システム内容の検証と共にリプレースの準備を実施しました。</li> <li>●教育文化会館の老朽化等による川崎区における市民館機能のあり方についてまとめ、パブリックコメント等を実施した上でその考え方について決定し、今後の検討につなげました。</li> </ul>							
指標等の 成果分析 (指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●社会教育振興事業の参加者数については、前年度と比べると、主に他機関との連携事業において参加者が減少しています。区との連携によりイベントを実施していますが、実施規模や実施時期などの影響により参加人数に大きな変動があったと考えています。</li> <li>●図書館来館者は減少しましたが、貸出冊数については前年度に比べ増加傾向にあることから、利用者がインターネット上の予約制度を活用するなど図書館を効率的に活用しているものと考えられます。また、高津図書館については、屋上防水・外壁工事等改修工事に伴い、一時全館休館(6週間)や2階閲覧室の長期閉鎖(約半年)をせざるを得ず、また、10月・12月のおはなし会も休止したため、入館者減につながりました。</li> <li>●社会教育振興事業を通じた新たなつながりについては、保育ボランティア研修やシニアの社会参加支援事業など参加者同士の交流がプログラムに設定されている事業では、増加の割合は高くなっていますが、講義形式のみの事業もあることから全体としての指標が下がったものと考えています。</li> </ul>							

※1 指標達成度の目安【 a. 目標値以上(100%以上)、b. 現状値以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～現状値未満、d. 目標達成率60%未満】  
 ※2 指標達成度の目安【 a. 目標値以上(100%以上)、b. 個別設定値(指標の説明)欄に記載)以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～個別設定値未満、d. 目標達成率60%未満】

### 3 施策を構成する主な事務事業の評価

番号	事務事業コード 事務事業名	サービ ス分類	事務事業の概要 (簡潔に記載)	主な取組の実績	事業費(千円)		事業の 達成度	施策へ の貢献 度	今後の 事業の 方向性
					予算額	決算額			
					H27年度				
					H28年度				
					H29年度(※決算額は見込)				
1	20302010 社会教育振興事業	参加・協 働の場	市民の学習や活動の支援、社会教育に係る団体やボランティアの育成、市民のネットワークづくりなどを行うとともに、学習の成果や地域の人材資源の活用を図り、市民の力による地域の教育力とまちづくり力の向上を図ります。	●子育てや、平和・人権・男女平等など、さまざまな学習の場の提供による、市民の「学ぶ力」の育成 ●市民が学びにより得た知識や経験等を身近な地域で活かす市民講師の養成・活用 ●市民提案・協働による課題解決型事業の推進、地域の生涯学習をコーディネートする人材の育成	43,581	40,864	3	A 貢献して いる	II 改善しな がら継続
					46,705	42,525			
					46,395	43,059			
2	20302020 図書館運営事業	参加・協 働の場	市民が読書に親しむ機能に加えて、地域情報や生活情報など、さまざまな分野で市民が必要とする資料や情報の提供・発信を行います。	●多様な市民ニーズに応えるための資料の充実・タイトル数の確保(全85万タイトル) ●課題解決に役立つ地域資料等の広範な資料収集・提供 ●ICTを活用した効率的な図書館の運営管理 ●図書館総合システムの円滑な運用 ●図書返却ボックスの設置に向けた検討	719,042	675,577	3	A 貢献して いる	II 改善しな がら継続
					702,310	676,746			
					712,906	680,516			
3	20302030 生涯学習施設の環境整備事業	参加・協 働の場	市民の生涯学習や地域活動の拠点として生涯学習の環境整備に取り組みます。	●高津図書館及び3市民館の改修工事の実施 ●市民館・図書館分館における管理運営体制の検討 ●学校施設の開放(校庭140校、体育館165校、特別教室135校) ●「川崎区の市民館機能のあり方について～再編整備の方向性～」の決定	268,102	225,617	3	A 貢献して いる	I 現状のま ま継続
					679,744	631,190			
					935,147	789,164			
4									
5									

### 4 施策の達成状況

施策の 達成状況 (指標等の成果を中 心に施策を構成す る事務事業の評価 等から総合的に評 価)	区分	選択区分	達成状況区分を選択した理由
		<b>A. 順調に推移した</b> (目標を達成した) <b>B. 一定の進捗があった</b> (目標未達成のものがあるが一定の進捗があった) <b>C. 進捗が遅れた</b> (現状を下回るものが多くあった) <b>D. 進捗は大幅に遅れた</b> (現状を大幅に下回った)	<b>B</b>

### 5 今後の方向性

今後の 事業構成の 妥当性 (手段は妥当か?)	区分	選択区分	「事業構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
		<b>I. 効果的な事業構成である</b> (現状のまま継続する) <b>II. 概ね効果的な構成である</b> (一部見直し等の余地がある) <b>III. あまり効果的な事業構成でない</b> (見直し等の余地が大きい) <b>IV. 事業構成に問題がある</b> (抜本的な見直し等が必要である)	<b>II</b>